

～自分の思いを議場で発信～

ゆぎわ市民 一日議会

湯沢市議会
YouTubeチャンネル



2022年 **10/30** 日

日 13:30～16:00



開催報告書



YUZAWA
CITY

令和4年12月

湯沢市議会

目次

1. 開催概要	1
1)開催の目的	1
2)事業の概要	1
3)開催日程等	1
4)議会運営	1
2. 参加者名簿	2
1)発言者とテーマ一覧	2
2)参加者の構成(性別・地域・年代区分)	2
3. 議席図	3
1)ゆざわ市民一日議会議席図	3
2)注意事項一覧	3
4. ゆざわ市民一日議会	4
1)スケジュール	4
2)オープニング	4
3)議長プレゼンテーション	5
4)会議記録	6
5)スナップショット	28
5. アンケートの集計結果	32
1)アンケート(参加者・傍聴者)	32
6. ゆざわ市民一日議会を終えて	37
1)湯沢市議会第4回(12月)定例会一般質問	37

1. 開催概要

1)開催の目的

市民の市政参画を推進し、市議会活動について一層関心を深めていただくことを目的に、市民の皆様から市政や議会へのご意見やご提案をお聴きする新しい取組として、「ゆざわ市民一日議会」を開催しました。

2)事業の概要

議場において、市民の皆さんが暮らしの中で思われていることなどを発表していただく場を設けました。発言者の皆様からいただいたご意見やご提案については、議会改革推進会議などで協議し、市政および議会活動に反映させてまいります。

3)開催日程等

日時 令和4年10月30日(日) 13時30分から16時まで
会場 湯沢市議会 議場
名称 ~自分の思いを議場で発信~ ゆざわ市民一日議会

4)議会運営

- ①議事の進行は議長が行いました。
- ②発言の内容は市政や湯沢市議会に関することとし、1つのテーマに限定しました。
- ③発言時間を1人5分程度としました。
- ④当日の議会映像はYouTube(ユーチューブ)でライブ配信しました。

ゆざわ市民一日議会(前半) <https://youtu.be/NNt4w6Gc4e4>

ゆざわ市民一日議会(後半) <https://youtu.be/i64H3xmCusw>



2. 参加者名簿

1) 発言者とテーマ一覧

発言順番号	発言者氏名	発言のテーマ
1	鈴木 咲良	環境問題について
2	佐藤 拓弥	人口減少が進む中でも湯沢市に住んでいる人々が幸福感を持って暮らそう！
3	原 陽奏	小学生が楽しく過ごせる場所を作ってほしい
4	小崎 嘉純	湯沢市のおまつりを国の無形民俗文化財に登録したい！
5	佐々木 透	湯沢の人口減の取り組みと環境
6	福田 雛	湯沢市を音楽のまちとして盛り上げたい
7	小川 選手	地域産業の活性化を図りたい
休憩 10分		
8	佐藤 さくら	子育てのしやすいまち 湯沢
9	桐谷 泰輔	湯沢市に欲しい物や過去の湯沢市について
10	菊地 佐起子	地域コミュニティを再構築したい
11	山内 蓮	若者が集まるゆざわにしたい
12	佐藤 文男	未来への投資(子育て支援の一環として)
13	高橋 節子	失敗を恐れずに新しい試みを
14	鈴木 義昇	明日の子供達の未来
15	田村 昭學	地方の地域活性化に必要なこと ～人口増加と経済効果～

2) 参加者の構成(性別・地域・年代区分)

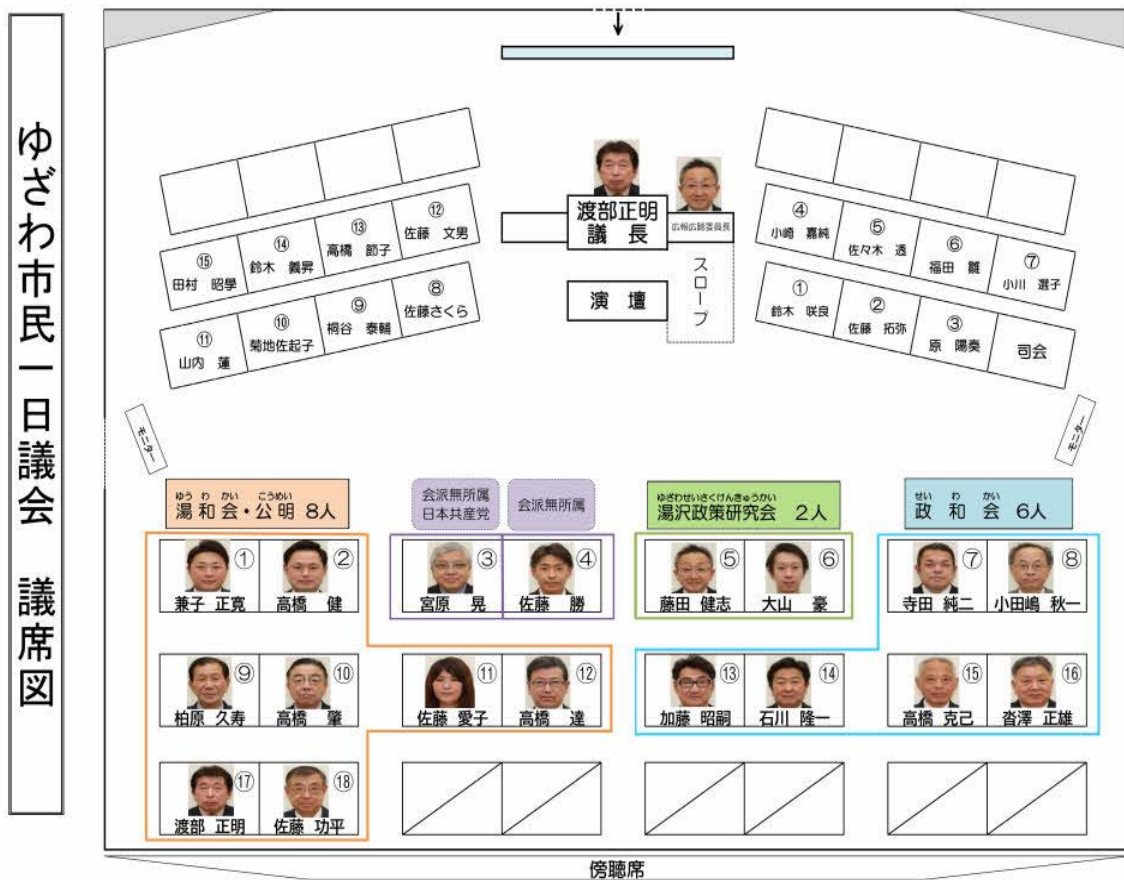
男性	女性	合計	湯沢地域	稲川地域	雄勝地域
8名	7名	15名	11名	2名	2名

小学生	中学生	高校生	30代	40代	50代	60代
1名	1名	3名	3名	1名	4名	2名



3. 議席図

1) ゆざわ市民一日議会議席図



2) 注意事項一覧

ゆざわ市民一日議会はユーチューブで配信しています。また、撮影を許可している場合があります。傍聴席も映り込むことがありますので、ご了承ください。

議会中継 QRコード

- #### ゆざわ市民一日議会 注意事項一覧
- 議場での注意事項
- ・発言者は次の行動をとらないでください。
 - ①個人のプライバシーに関することや批判的・中傷的な発言
 - ②大声で叫ぶ、脅迫的、または罵倒するような発言
 - ③議会の秩序ある運営を乱すようなその他の言動
 - ④決められた発言時間の超過
 - ⑤その他議長が不適切と判断する発言
- 傍聴者は次の行動をとらないでください。
- ①大きな声や音を発する等、騒ぎ立てないこと。
 - ②はち巻き、腕章の類をする等示威的行為をしないこと。
 - ③飲食をしないこと。
 - ④携帯電話等音声を発生する機器は、電源を切り、又は音を発しないようにすること。
 - ⑤議場の秩序を乱し、又は妨害となるような行為をしないこと。
- 写真や動画の撮影は可能です。ただし、個人の記録用として撮影し、SNSなどのインターネット上での公開はしないでください。

4. ゆざわ市民一日議会

1) スケジュール

時間	所要(分)	内容
12:30 ~ 12:45	15	参加者受付(4Fフロアにて)
12:45 ~ 13:10	25	事前説明&リハーサル(議場にて)
13:10 ~ 13:25	15	休憩・取材対応(会議室41にて)
13:25 ~ 13:30	5	5分前入場(議場へ)
13:30 ~ 13:40	10	オープニング(開会・議長プレゼン)
13:40 ~ 13:50	10	発言者① 鈴木咲良さん
13:50 ~ 14:00	10	発言者② 佐藤拓弥さん
14:00 ~ 14:10	10	発言者③ 原陽奏さん
14:10 ~ 14:20	10	発言者④ 小崎嘉純さん
14:20 ~ 14:30	10	発言者⑤ 佐々木透さん
14:30 ~ 14:40	10	発言者⑥ 福田雛さん
14:40 ~ 14:50	10	発言者⑦ 小川選子さん
14:50 ~ 15:00	10	休憩
15:00 ~ 15:10	10	発言者⑧ 佐藤さくらさん
15:10 ~ 15:20	10	発言者⑨ 桐谷泰輔さん
15:20 ~ 15:30	10	発言者⑩ 菊地佐起子さん
15:30 ~ 15:40	10	発言者⑪ 山内蓮さん
15:40 ~ 15:50	10	発言者⑫ 佐藤文男さん
15:50 ~ 16:00	10	発言者⑬ 高橋節子さん
16:00 ~ 16:10	10	発言者⑭ 鈴木義昇さん
16:10 ~ 16:20	10	発言者⑮ 田村昭學さん
16:20 ~ 16:22	2	クロージング(閉会・議長あいさつ)
16:22 ~ 16:30	8	記念写真撮影

2) オープニング

藤田健志広報広聴委員長が司会を務め、ゆざわ市民一日議会のスケジュールや注意事項などについて説明しました。





3)議長プレゼンテーション

ゆざわ市民一日議会の開会に先立ち、渡部正明議長によるプレゼンが行われました。2021年に行った議会基本条例の検証結果から課題を見出し、「市民に身近で信頼される議会」というコンセプトのもと、議会改革に積極的に取り組むチーム湯沢市議会のプロジェクトがスタートしました。市民と議会との多様な意見交換の場の設定から政策立案機関としての機能強化を図るため、議長自らが広告塔となり、今年の湯沢市議会のテーマ「動」をアピールしました。また、令和3年度から議会改革推進研修会を開催し、広報広聴機能の充実と政策立案機能の強化に向けた湯沢市議会型政策サイクルが完成したことなど、湯沢市議会における議会活性化の取組について報告しました。



湯沢市議会基本条例の検証

～ その時議長は・・・～

今年のテーマは・・・



4)会議記録

令和4年ゆざわ市民一日議会 記録

日 程 令和4年10月30日(日)午後13時40分開会

場 所 湯沢市役所本庁舎4階 本会議場

出席議員(15名)	前半	後半
	1番 鈴木 咲良 議員	8番 佐藤 さくら 議員
	2番 佐藤 拓弥 議員	9番 桐谷 泰輔 議員
	3番 原 陽奏 議員	10番 菊地 佐起子 議員
	4番 小崎 嘉純 議員	11番 山内 蓮 議員
	5番 佐々木 透 議員	12番 佐藤 文男 議員
	6番 福田 雛 議員	13番 高橋 節子 議員
	7番 小川 選子 議員	14番 鈴木 義昇 議員
		15番 田村 昭學 議員

湯沢市議会議員出席者 議長……………渡部 正明
副議長……………沓澤 正雄
議員……………兼子 正寛
議員……………高橋 健
議員……………宮原 晃
議員……………佐藤 勝
議員……………藤田 健志
議員……………大山 豪
議員……………寺田 純二
議員……………小田嶋 秋一
議員……………柏原 久寿
議員……………高橋 肇
議員……………佐藤 愛子
議員……………高橋 達

議員……………石川 隆 一
議員……………高橋 克 己
議員……………佐藤 功 平

事務局職員出席者 事務局長……………後藤 克 利
書記……………柴田 和 美
書記……………佐藤 博 人
書記……………鹿角 将 良
書記……………鵜沼 明日美
書記……………沼倉 秀 弥

会議の経過

(開会 午後13時40分)

議長(渡部正明) 　　ただいまより、令和4年ゆざわ市民一日議会を開会いたします。本日の発言者は15名です。発言の順番は、お手元に配布の「発言者とテーマ一覧」のとおりです。順次、発言をお願いします。はじめに、発言順番号1番、鈴木咲良さん、発言をお願いします。1番、鈴木咲良さん。ご登壇ください。発言のテーマは、環境問題について。それでは、よろしくお願いします。

1番(鈴木咲良さん) 　　こんにちは。私は湯沢市が大好きです。湯沢市にはずっと元気でいてほしいと考えています。私がこのように思うようになったきっかけは、湯沢市の七夕まつりのときに、環境問題を考える一環として、湯沢市役所を会場に、自分が着なくなった服を再利用するフリーマーケットを開催したときのことです。そのときに、フリマの内容を書いたチラシを配ると、みんなが知らないふりをせずに立ち止まってくれました。中には、内容について質問してくれたり、応援してくれたりする人もいました。そして、多くの人がチラシを頼りに会場に来てくれました。私の活動に賛同してくれて、ほとんどの商品が売れました。そこから、私は自分の思いを伝えると、湯沢市の人たちは、考えたり、行動してくれたりする温かい人たちだということを実感しました。今までの私は湯沢市を出たい、都会に行きたいと思っていましたが、この湯沢市の人たちの温かさに触れ、湯沢市で生活をして、湯沢市を元気にしていきたいと思うようになりました。今回、環境問題を考え、このような活動をする中で、湯沢市が行っているゼロカーボンシティ宣言を知ることができました。しかし、このような宣言を知っている人はほとんどいません。私が行ったのは、フリマという小さな取組でしたが、この取組を通して、環境問題を身近に感じてくれた人も多数いました。そこで、湯沢市の人たちにもっと環境問題や湯沢市の取組の良さに気付いてもらうために、湯沢市が企画運営し、市民が参加できるフリーマーケットのようなものを開催してはどうかと考えるようになりました。市が企画することにより、多くの人に知ってもらえますし、どうして市がこのようなことに取り組んでいるのだろうと、湯沢市民が考えるきっかけになると思います。また、小さな活動を続けていくことで、私のように湯沢市を好きになるきっかけを与えることに繋がるのではないかと考えています。そして、その活動こそが、湯沢市ゼロカーボンシティ宣言達成の大きな一歩になると考えています。以上のことから、今の湯沢市には、ゼロカーボンシティ宣言の存在と、ゼロカーボンシティ宣言とは何なのかと

いうことを知ってもらおうきっかけ作りが必要なのではないかと考えています。こんなにも温かい湯沢市民なので、湯沢市民に知ってもらおう工夫をすれば、湯沢市はすぐには変われるのではないかと思います。しかし、ゼロカーボンシティ宣言について知っても、それは一体何なのか、具体的には何をすれば良いのか分かりにくいというのが現状だと思います。そこで、小学校、中学校、高校で知ってもらおう活動も並行して行ってほしいと思います。年齢に応じたプログラムを考えてほしいです。何より、みんなが過ごしやすい大好きな湯沢市を元気にしていきたいです。これで終わります。ありがとうございました。

議長（渡部正明） 鈴木咲良さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。兼子正寛議員。

兼子正寛議員 トップバッターということで、ありがとうございました。湯沢市に対する思いということで、湯沢市が好きだという思いが本当にありがたいなど。私もそういう思いで今議員をやっているわけですが、まずこの湯沢市ゼロカーボンシティ宣言につきましては、6月に宣言をいたしましたけど、やはり皆さんが感じているように、まだまだ周知が足りないというところがあると思います。これからはですね、市民の皆さんと一緒に、湯沢市議会としても取り組みながら、何を具体的に進めていくのか、そういったところをやらなければいけないなど、今感じたところであります。そしてフリーマーケットですね。私も先日地域の学習発表会でPTAの方々と地域の方々とフリーマーケットやって環境問題について皆で考えようという取組をしておりました。やはりそういうことをやる中で、一人一人が環境について感じる事があればいいなと思っております。本当ありがとうございました。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、鈴木咲良さん自席へお戻りください。ありがとうございました。次に、発言順番号2番、佐藤拓弥さん、発言をお願いします。2番、佐藤拓弥さん。ご登壇ください。発言のテーマは、人口減少が進む中でも湯沢市に住んでいる人々が幸福感を持って暮らそう。それでは、よろしくお願いします。

2番（佐藤拓弥さん） 私は院内地区で活動している、いんない未来塾という団体を務めさせていただいております。皆様に配布させていただきました資料のとおり、いんない未来塾では、人口が減少し、高齢化が進む状況でも、地域住民が幸福を感じてこの街で生きていこう。ということをコンセプトに活動を行っています。人口減少や少子高齢化により、全国各地で様々な課題を抱えている地域が多数存在しており、これからますます進んでいきます。これまでの当たり前が、当たり前でなくなることも大いにあるのではないかと思います。それらの問題は正直なところ、一個人や地域団体の活動ではどうしようもないところまで進んできていると考えており、もちろんこの湯沢市も例外ではありません。しかし、そのような中でも、そこに住んでいる私たちが幸福感をもって暮らしていけたら、それだけで良いのではないのでしょうか。人口減少＋少子高齢化＝不幸やマイナスだと思わず、暮らしている住民が暮らし続けるために、幸福やプラスを意識することが重要だと私は考えております。もちろん今後、人口減少などに伴った諸問題も地域課題としてますます増えていくでしょう。高齢者宅の除排雪や、鉄道やバス路線などの交通機関の廃止、商業施設や病院も減っていくことが予想されます。だからこそ、今から地域にある団体や事業所、法人などが繋がりをもち連携し、それらの課題に対応できる院内地区として、社会のモデル地区になればと考えました。現在の院内地区には、地域づくり協議会や各町内会の他に、NPO法人おがちふるさと学校や、我々いんない未

来塾といった団体が、様々な場面で連携しながら活動を行っています。資料に記載のとおり、様々な事業を団体間で連携しながら実施することにより、横のつながりが生まれ、地域コミュニティの強化につながったことで、これまで一つの団体では達成できなかったことも、お互いに協力し合うことで目標を達成することが可能になってまいりました。地域の草刈りやクリーンナップ、各季節に行われる催事やお祭り、地域の交流の場としての農園づくり、通学路の除排雪や雪下ろしのボランティア活動など、人生の先輩方に様々な技術やノウハウを教授して頂きながら、若い世代が積極的に参加しやすい場づくりを現在進行形で行っており、賛同する会員も年々増加してきております。配付させていただきました資料の裏面をご覧ください。こうした活動を通じて院内を知って貰いたいという思いから、YouTubeでいんない未来塾チャンネルを立ち上げ、動画配信も不定期ながら行っております。内容としては、院内で行われたイベントの内容や風景、除排雪などのちょっとした地域活動の様子、院内の文化や偉人の紹介、院内の魅力ランキングなど様々な視点から院内を紹介しております。動画を配信することで、院内を離れてしまった方々にも、故郷を感じてもらえることが出来ますし、住んでいる方にも記録として残していくことが出来ます。宜しければチャンネル登録と高評価をよろしくお願いいたします。この様にして、人口が減少しても、地域住民が協力し合いながら生き生きとした生活をしている未来を思い描いていければ、それは幸福感に通じていくものと考えており、院内地区のみならず、湯沢市内にもこの流れが広がっていけば、湯沢市に誇りを持って暮らす市民が増えていくことでしょう。また、事情によりふるさとを離れてしまった方々も、心の中に故郷の良さや繋がりを感じることができれば、Uターンへの思いを強めてもらうなど、移住定住の促進や関係人口の構築に繋がっていくことと思います。「地域住民、地域団体、事業所、それぞれが連携し、地域課題を解決する湯沢市」をコンセプトとした街づくりを目指し、市民が取り組みやすい環境づくりを、行政として担って頂きたいと思っております。これから10年後、20年後の湯沢市がどのようになっているかはだいたい想像できます。決して目をそむけずに、そこで暮らしている人間が生き生きと暮らしていけるように、我々若い世代が集い、語り合う場が絶対に必要です。地域の若者がいんない未来塾に参画し、その輪が広がっていくことで、次世代を担う人材がどんどん増えていくことでしょう。地域住民がみんな繋がっていけるための土台となれるよう、これからも活動を広げていきたいと考えています。以上で私の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

議長（渡部正明） 佐藤拓弥さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。高橋達議員。

高橋達議員 人口減少それから少子高齢化に対する問題についてご発言いただきました。私も議員として、この問題が一番に本市も含め、全国的な問題と感じている一人であります。しかしながら、この問題につきましては、有効な手段がなかなか見いだせない状況であり、行政もまた、当議会としても、この問題についての対策について、本議会場での議論、また、各議員からもいろんな対策についての提案をしているところであります。さて、佐藤さんからご発言いただきましたが、このような状況の中で一番市民から求められているのはなんだかということ、やはり安心安全が保障された中に、その幸福感を感じて暮らせることが一番だと私も思っております。佐藤さんにお伺いしたいと思えますが、市のホームページをご覧になったことはございますか。その中に、令和3年度湯沢市民満足度調査の報告書のページがあります。ご存知でしょうか。ぜひともご覧になっていただきたいと思えます。その中で一番、市民の方が満足、やや満足しているという合計で、一番高いのは安心な生活環境の構築となっています。市民の皆さんが暮らしやすい生活環境が、まず一番だと感じていることだと思います。しかし、今後住みやすい環境が十分に整備されたとしても、私はそこに暮らす市民一人一人の心の充実がなければ、やはりうまくないのではないのかなと思っています。人はやはり一人では生きていけないと私は思っています。そこで暮らすには、ご発言いただきましたけれども、地域の

繋がりが。これがあってこそだと思います。ぜひとも佐藤さんをお願いですけれども、本市では、市の施策で協働のまちづくりを推進しています。今、同じような組織が当然院内もそうですけれども、そこで地域住民主体のいろんな活動を実施しています。院内も素晴らしい取り組みをしているとご報告いただきました。他のところにもぜひ目を向け、耳を傾け、五感で感じたことを、もっともっとSNS等で発信していただけたらと思っています。最後になりますけれども、佐藤さんには、地域のリーダー役としてますます活躍していただきたいと思っております。私の意見であります。ありがとうございます。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、佐藤拓弥さん自席へお戻りください。ありがとうございます。次に、発言順番号3番、原陽奏さん、発言をお願いします。3番、原陽奏さん。ご登壇ください。発言のテーマは、小学生が楽しく過ごせる場所を作してほしい。それでは、よろしくをお願いします。

3番（原陽奏さん） 僕は湯沢市が大好きです。小学生がもっと住みやすいまちになるために、お願いが三つあります。一つ目は、楽器の練習を気軽にできる場所がほしいです。僕はアパートに住んでいるので、楽器を家で吹くことができません。楽器の練習ができる場所があると、アンサンブルや苦手なところを練習することができるし、みんなで集まって楽しく練習することができます。二つ目は、安全に遊べる公園が欲しいです。理由は、今の湯沢市にある公園は遊具が少なかったり、柵が無かったりするのので、今は思い切り遊ぶことができません。安全に遊べる公園があれば、みんながもっと楽しく自由に遊んだり、練習したりすることができます。アスレチックの遊具がある公園などを作ってくれればよいなと思っています。三つ目は廃校を利用した迷路やお化け屋敷などの楽しいイベントや、遊び場としての活用が進めばいいなと思います。以上で発言を終わります。

議長（渡部正明） 原陽奏さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。沓澤正雄議員。

沓澤正雄議員 原陽奏さん。素晴らしいご提案ありがとうございます。実は私どもの地区にも子供会がございまして、このようなお話がたくさん出ております。湯沢市が目指す音楽のまち。こういう環境を、やはり市としても、皆様に提供する場所がたくさんあって、音楽のまちを盛り上げていく、そういうことが必要であると思っております。二つ目の公園についてですが、公園についてもユーザ一数は確かに非常に少ない状況でございます。公園を作るには、トイレ、それから水、そういうものも必要になってきます。そういうものを整備しながら、良い公園を作っていただければと思っております。私どもの地区でも今年は遊具を整備しまして、地域の資金を使いまして、来年からは芝生化して公園を整備する。そういうふうな活動をしております。また、公園ばかりでなく、地域の森林を使ったレクリエーションの場、そういうものも今整備しております。地域一丸となった活動しておりますので、ぜひそういうところにもお足を運んでいただければと思います。また、学校の廃校の利活用についてですが、私どもの地域も統合となりまして、廃校舎の利活用について要望が出されておりますが、なかなか市の予算というか、計画が進んでいない状況でございます。私どもの一般質問等で、来年度予算で早急に対応できるように頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。本日はどうもありがとうございました。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、原陽奏さん自席へお戻りください。ありがとうございます。次に、発言順番号4番、小崎嘉純さん、発言をお願いします。4番、小崎嘉純さん。ご登壇ください。発言のテーマは、湯沢市のおまつりを国の無形民俗文化財に登録したい。それでは、よろしくお願いします。

4番（小崎嘉純さん） 「湯沢市には、なんもねえ」4年前、湯沢市に訪れた人に、「どこかお勧めの場所はありますか？」と尋ねられた時、私はついそう答えてしまいました。とっさに出た言葉に、自分自身残念な気持ちになりました。私は絵どうろうを描き始めて今年で14年目になります。湯沢市絵どうろう保存会に入会し、毎年七夕まつりに参加しています。しかし、現在も大型絵どうろうの制作場所はありません。また、絵師の高齢化による描き手、作り手不足に直面しています。お手元の資料をご覧ください。今年3年ぶりに七夕まつりが開催されました。アキスター体験型事業は今年初の試みで、七夕まつり期間中にミニ絵どうろう絵付け体験を行いました。まだ走り始めたばかりですが、将来、大型絵どうろうの制作体験も行っていきたいと考えています。今回、私が皆さんと一緒に考えていきたいことは、七夕まつりを含む湯沢三大まつりが、未だに文化財への登録を果たしていないことについてです。私が目指していきたい国の無形民俗文化財登録は、コロナ禍の救済措置として近年新設されました。文化財登録メリットは、認知度が大幅にアップします。湯沢市の効果として、「湯沢市には、なんもねえ」と言っていた人が、三大まつりが文化財登録になったと、地元で育った自信が生まれ、地元の魅力を再認識するようになり、一人一人の発信力が高まります。つまり、文化財登録によって、湯沢市民のシビックプライドの醸成に繋がるのです。さらに、大型絵どうろうの制作場所が出来た場合、内側のメリットとして技術を高める場所となり、外側のメリットとして絵どうろうの魅力に染まり、修学旅行やツアーなど、湯沢市に訪れる人が増え、観光事業の活性化となり、関係人口の増加に繋がります。国の無形民俗文化財登録はハードルが高いように感じます。しかし、出来ることから少しずつ始めて行くと必ず実現できると確信しています。アキスター体験型事業の絵付け体験もそうでした。私の考える提案は、地域型湯沢市文化部の発足です。学校にある部活動のように、湯沢市独自の文化部を創設するということです。地域×学校で、空き家や文化財施設を活用し、伝統文化を学べる固定の場所を創ることで、子供たちが主体となり、自分たちで考えて制作することが出来る育成を図りたい。まずは、まつりのイベントとして数年行ってみて、年を重ねるごとに制作グループを増やしていく、数年後には、市外や県外からも募集し、大型のイベントにしていくのはどうでしょうか。さらに、七夕まつりの際に部活動で制作した自分たちの絵どうろうを、観光客に観覧して頂くスタイルに変えていくことにより、子供たちの楽しさや、ワクワクが増え、忘れられない体験となり、地元に残りたいという若者も、増えていくのではないのでしょうか。つまり、地域型湯沢市文化部を創ることにより、子供たちが地元のまつりに関わることで、絵どうろう制作の面白さを理解し、描き手や作り手の人手不足の解消、絵どうろうの基数も増え、七夕まつりが更に盛り上がり、観光事業の発展に繋がります。関係人口も比例して増えます。足りないこと、必要としている場所は、ハッキリと分かっています。ですので、次へのステップを今こそ、踏み出すときではないのでしょうか。以上で発言を終わります。

議長（渡部正明） 小崎嘉純さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。寺田純二議員。

寺田純二議員 発言大変ありがとうございました。今年3年ぶりに行われました七夕絵どうろうつりを見に行きました。あれだけの人がこの湯沢市に集まること自体が素晴らしいのですが、やはりこのまつりには、七夕絵どうろうを見に来られた方がほとんどだと思います。私も保存会の方にたくさ

ん知合いがおりますが、絵師や作り手が減少しているということを伺っております。また、製作場所がない、常設会場がないということもいろいろ伺っております。私もサンロードの空き店舗をリフォームして利活用できないかという思いがありまして、これからともに一緒に考えていけたらと思います。また、小学校の授業の一環として、子どもたちがグループに分かれて絵どうろうを作成して街中に飾るということも非常に大事なことだと思ひまして、今後、子供たちの健全育成のためにも、伝統継承するためにも非常に大事なことであると思ひます。湯沢市におきましては、有形無形ともにまだまだ登録が少ない部分がありますので、一つでも多く登録に結び付けるように一生懸命頑張ってまいりたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひします。本日は大変にありがとうございました。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございせんか。高橋達議員。

高橋達議員 発言ありがとうございました。私が残念に思ふことは、伝統的な絵どうろうは夏の風物詩ということでやっていただいたら大変良いと思ひますけれども、夏とかですね、秋とか冬とか、冬には犬っこまつりもあるんですけども、ぜひともですね、そういうふうな夜間にですね、例えばデザイナーの方にですね、変わり絵どうろうというような形で、年間を通してそういうふうなイベントをしたらどうなのかなと考へています。実際そういうふうなことを企画したらですね、市民の皆さん以外にも、また湯沢市も訪れてくれる方がたくさん増えるんでないのかなと思ひてます。私の考へですけども、年間を通してこういうふうなイベントをやってみたらいいのかなと私思ひてますけども。ちょっと感想聞かせていただければと思ひますがどうでしょうか。

議長（渡部正明） 小崎嘉純さん。

4番（小崎嘉純さん） 年間のイベントですね。私自身このアキスター体験型授業の絵付け体験は、年間を通していつでもどこでも、家でも会社でも学校でも好きところで体験ができるという授業を行っていますので、それを徐々に大方の絵どうろうのイベントができるような、そんなスタイルに間変えていきたいと思ひますので、みんなで一緒に考へていただきますようお願ひします。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございせんか。ないようですので、小崎嘉純さん自席へお戻りください。ありがとうございました。次に、発言順番号5番、佐々木透さん、発言をお願いします。5番、佐々木透さん。ご登壇ください。発言のテーマは、湯沢の人口減の取り組みと環境について。それでは、よろしくお願ひします。

5番（佐々木透さん） 湯沢市の人口についてですが、参考資料を参照いただくと確認できます。平成17年の市町村合併時に5万5千人だった人口が、令和4年の9月で4万1千人です。減少率は25%です。でも、65歳以上の高齢者人口は、逆にこの5年間で微増しております。よって高齢化比率は30%から41%に上がっております。年齢人口から推計すると、10年後には人口が3万4千人で、高齢者は2万人。高齢化比率は59%という数字になってきます。このままでは持続可能な自治体となりえますでしょうか。今後の行政サービスが一体どうなるんだらうかという不安があります。消滅可能性都市という言葉はご存知でしょうか。2040年に向けて、20歳から39歳の女性が半分以上減少し、消滅する可能性のある都市を指定したものです。子どもを産める世代が一定割より下回ると人口が一気

に減少する。つまり人の数が少なくなったら、税収が乏しくなって、自治体経営の破綻を意味しています。自然増減が0.5%以下になれば、総務省は50年後には維持できないと公表しておりました。湯沢市は既に持続不可能な街になっております。このままでは湯沢市が潰れてしまうのではないかということになります。行政サービスの一つの雪についてです。資料の2枚目になります。雪に関しては、2016年から5年ほど共助組合の会長として活動しました。資料の降雪量をご確認ください。世界一降雪する都市の第一位が青森市です。これが3枚目に書かれておりますが、青森市が8メートル、第2位が札幌市、第3位が富山市で秋田市は第7位です。繰り返します。あの秋田市が第7位です。しかし、この横手盆地の降雪量は平野部で2018年、2019年では、11メートルを超えました。つまり、真の世界一の豪雪地帯は、横手と湯沢になります。天から降ってくる雪は誰のものでもございません。これを認識してほしいと思います。行政側の除排雪と住民の思う除排雪の認識にギャップがあると思います。この定義が曖昧なために、住民から不満が出てくるのです。行政側による除雪とは、車が通れるように道路確保の除雪をすること、排雪と朝押しした雪を、後日市の雪捨て場にダンプで運んでいくことで、なので、これには住宅前に置かれた雪は含まれません。住民側は処理する場所がないから困っているのです。50年前の48豪雪のとき以降に、消雪パイプが設置されたり、市道の除雪が進みました。当時は若い方の人口が多くてマンパワーがあって今のような車社会とは違いました。私の住む住宅も30年前に分譲されましたが、この頃から市に対して流雪溝の設置をお願いしましたが、設置はしないとされた地域になっております。当時はまだ30代でしたから体力もありましたが、他の住民も同様に、30代・40代から高齢化が進み、以前のようには動きません。50年前とは環境が変わっていることを認識してもらい、今までの市の考え方では立ちゆかなくなるというのが現状だと思います。ところが市には予算と水源がないということで、なかなか進みません。流雪溝があれば全てが解決するわけではありませんが、設置されれば大きな問題が解決します。水源は雄物川から引く第二大堰という方法もあります。その水源確保や第二大堰や流雪溝を作るには確かに財源が必要なので、ではどうするか。稼ぐ湯沢市になることです。地熱のまちでの地熱発電で市に入る税収をあげること考えることが必要なので、電源三法を改正し、改善して交付金を欲しいとか資源エネルギー庁に働きかけて、地産地消の再生可能エネルギー特区を作ってくれとか、そういったこともありえるのではないのでしょうか。小水力発電も省エネとして有力です。その雪解け水を使って発電するのです。菅政権前菅総理が、日本政府としてカーボンニュートラルを発表しました。カーボンニュートラルと地熱発電をもっと推進するために湯沢市が手を挙げれば良いのですが、これによって国定公園内に地熱発電所をもっと作るとか、地熱電力を市が全量買い取って、電気代を他よりも低くして工場誘致に使うなど、色々なことが出来ると思います。現在のインフレは水と電力です。地熱という再生可能エネルギーを利用する工場を誘致して、国家戦略特区にとか知恵を絞って市の税収が増えるようにする仕組みを作る事が必要だと思います。以上で発言を終わります。

議長（渡部正明） 佐々木透さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。大山豪議員。

大山豪議員 発言の趣旨をいろいろお伺いしまして、議員の立場から僭越ではございますけれども、感想と意見を申し述べさせていただきます。まず、全般としては除雪の話だったかと思いますが、人口減少ですとか地熱とか多岐にわたって複雑に、いろいろ課題も山積であるだろうし、絡み合った糸を一つずつ解していかなきゃいけないだろうと考えていますけれども、一つ、人口減少について言えば、凡そ30年ぐらい前から言われてはいたことですが、なかなか手付かずであって、ここにきて慌て出しているという現状、これは否めないと思います。ただ、子育て支援策が一種政治のトレンドでブームになってですね、湯沢市も取組をしておりますけれども、子育て支援を頑張ると出生数が増えるかといえば、せめて維持するぐらいというのが関の山かなというのは今の時点で反省として

あります。どちらかといえば、これから減っていく。人口が減っていくということが確定している数字がありますので、それに合わせた社会構造ですとか、制度を変えていくっていうのは、我々の課題だと思いますけれども、いかんせんやっぱり地方に権限といいますか、そういったところは少ない。財源もないということが課題でもあります。明治以降、戦後もそうですが、一極集中が政策で大体決められてきているところが結構ありますので、まずは地方議員にできるところといえば権限をよこしてくれと、地方分権に少しでも一歩近づいてほしいなというところで活動していくのがまず一つ。除雪に関しては、これはここに住む者としては宿命というようなところであると思いますので、これは技術開発にちょっと私は可能性を感じてはいるんですけども、そこで、コストも安くできるようなものができたらいいなという期待と、あとはそうですね。仕組みの問題ですかね。ここはじっくり課題を整理しながら取り組んでいきたいと考えています。以上です。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、佐々木透さん自席へお戻りください。ありがとうございます。次に、発言順番号6番、福田雛さん、発言をお願いします。6番、福田雛さん。ご登壇ください。発言のテーマは、湯沢市を音楽のまちとして盛り上げたい。それでは、よろしくお願いします。

6番（福田雛さん） 私は音楽のまち”ゆざわ”をもっと広げたいと思っています。湯沢市では、サマーミュージックフェスティバルなどをはじめとする音楽のイベントが多く行われています。今年は湯沢南中学校、湯沢高校、湯沢翔北高校、NG吹奏楽団の4団体が東北大会出場を決め、演奏の力も上がっているのが感じられました。しかし、少子化ということもあり、年々吹奏楽に入部する人数が減っているのが課題だと思っています。部員数が30人を超えている学校も少なくなっていると感じています。それに伴って、同じ楽器の先輩がいないという子も増えていると思います。実際に私が小学校の時は、5年生になった時には同じ楽器の先輩がなくて練習するのに苦労した思い出があります。また、進学してから楽器を辞めてしまう人も増えています。それに加えて、例年行われていた楽器講習会も新型コロナウイルスの影響により中止になってしまい、楽器が上達する場が少なくなっているのが現状です。開催する予定だったイベントなども新型コロナウイルスの影響で中止になってしまうという事がたくさんありました。この問題について私は解決したいと思っています。そこで私は湯沢市に提案したい事があります。それは、湯沢文化会館での小・中高生、また、一般の団体の演奏会を増やして欲しいという事です。お客さんに演奏を披露できる機会が増えることは、私たちの演奏の成長の場につながるからです。また、音楽のまち”ゆざわ”を支えていくのは、今、吹奏楽をやっている生徒たちだと思っています。その生徒たちを増やすためにも演奏の機会を増やして欲しいです。湯沢文化会館の中でも、吹奏楽の演奏会は1番の集客が見込めると思います。吹奏楽の演奏会を増やすことで、もっと音楽のまち”ゆざわ”が広がると思います。私は、湯沢文化会館は湯沢市の音楽の拠点だと思っています。湯沢文化会館はとてもよいホールなので、湯沢市の宝だと思っています。音楽のまち”ゆざわ”を広げていくためにも、やはり湯沢文化会館をたくさん利用していくべきだと思っています。そうする事で、音楽に興味を持ち、私も音楽をやりたいなと思う人、音楽っていいなと思う人が増えていくと思うからです。湯沢文化会館を利用していくにあたって、設備をもっと良くして欲しいと思っています。湯沢市のホームページにある、湯沢文化会館機能向上事業計画を見ました。ヒアリング調査や、考察などがしっかりとされていました。そこで考察されていた内容をぜひ実現させて欲しいと思っています。実際に部活動で湯沢文化会館を使用した際に、雨漏りがあったりと、老朽化が進んでいると思いました。これからもたくさん湯沢文化会館を使用していくと思います。だからこそ、湯沢文化会館を守り続けて欲しいと思っています。そして、湯沢文化会館をずっとつなげて行って欲しいです。私は高校を卒業してからも、湯沢の吹奏楽団に入団して吹奏楽を続

けていこうと思っています。私のように湯沢市で音楽を続けていく人、音楽に興味を持つ人が増えて欲しいと思っています。音楽の力で湯沢がもっと盛り上がっていくことを願っています。以上です。

議長（渡部正明） 福田雛さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。石川隆一議員。

石川隆一議員 福田雛さんご発言ありがとうございます。湯沢市を音楽のまちとして盛り上げたいという熱意から、湯沢文化会館の利活用についてのご提言がございました。湯沢文化会館は昭和54年に建設されまして、もう既に42年たっております。耐震基準は満たしているものの、やはり老朽化が激しいということで、これからリニューアルに向けた検討を進めております。そういう中で、福田さんがご提案された湯沢文化会館は市民の宝だということで、やはり大ホールは素晴らしいものだと私も感じておりますし、6月に湯沢文化会館のいわゆる機能向上事業計画を策定しておりますし、今後機能面、それから運営の面トータルで考えておりますので、先ほどご提案いただいた事に関しても非常に参考にさせていただけるものと思います。私も音楽が好きで一人でありますので、ぜひ福田さんのご提言いただいたものを今後の議員活動の一環としてですね、様々当局に提案していきたいと思っております。また、音楽のまち”ゆざわ”ということで、平成20年8月に制定されておりますけれども、やはり子供たちが安心安全な、そういった吹奏楽の部活ができるように、ぜひリニューアルの方は皆さんのご意見をいただきながら、進めていただくように提言していきたいと思っておりますので、本当に参考となるご発言いただきましてありがとうございます。以上です。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、福田雛さん自席へお戻りください。ありがとうございます。次に、発言順番号7番、小川選子さん、発言をお願いします。発言のテーマは、地域産業の活性化を図りたい。それでは、よろしくお願いします。

7番（小川選子さん） 小川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。私は稲庭うどん製造販売業に携わっています。日本は人口減少によって国内市場は縮小の一途を辿っております。また、日本独自の文化として根付いてきたお中元やお歳暮を贈るという習慣も世代によって意識に差が生じるようになっていきます。そこで当社では、2016年より海外マーケットをターゲットにした市場開拓を行い、現在29カ国に輸出実績がございます。今月15日から17日には、フランスのパリで開催された展示会へ出展いたしました。今やうどんは世界的にも知られるようになり、おかげ様で新規のお取引先様が6社、これから具体的な交渉に入る企業が十数社ございます。また、現地を訪問したからこそ得られた情報もありました。今回は動物性食品を含まない「ビーガンつゆ」でご試食いただきました。ビーガンとは、肉類や魚を食べない完全菜食主義者の総称となりますが、フランスでは学校給食でも週1回「ビーガン・ベジタリアンの日献立」が提供されるほど健康志向が高く、稲庭うどんとビーガンつゆのコンビネーションは歓迎されました。食品は100の説明よりもまずは食べてもらうこと、そして生産者とお客様が顔と顔を合わせ商品のストーリー性に触れていただきながら試食してもらうことで商談はハイブリット化するという改めまして認識しました。今後も機会がありましたら商談会へ参加し、今や日本を代表する手延べ乾めんブランドに成長した稲庭うどんを広めたいと考えておりますが、海外展開を継続拡大するための費用を100パーセント自費負担するのは非常に厳しいものがございます。当社では今年度、湯沢市の「つくる力売る力向上支援事業補助金」を活用させていただいておりますが、これまでも県や国の実に様々な補助金や支援を活用しながら今日に至っております。その成果が売上に結び付き始めたのは昨年からのことでして、費用対効果については中・長期的な

ジョンで考える必要があると感じています。湯沢市には稲庭うどんのほか、日本酒・味噌・しょうゆ・いぶりがっこ・川連塗などに代表される工芸品など多くの特産品がございます。様々な企業が海外を目指したいと考えたときに、行政の支援によって背中を押してもらえることもあると思います。是非今後も補助金の継続あるいは枠組みをもう少し広げていただくと可能性が広がるのではないかと考えます。また、今は国内で開催されることの多い湯沢市の物産展を是非海外でも実施して欲しいと思っています。日本商材を輸入している海外バイヤーは、日本のことが大好きで、常に日本の珍しい産品・ストーリー性のある商品を探しています。最後にもう一点提案ですが、日本の入国規制が緩和されたことにより、現地バイヤーより工場見学の依頼も入り始めています。11月には中国、来年3月にはフランスから訪問予定となっております。せっかく湯沢を訪問してくださるのですから、小安温泉に宿泊いただいて地域をご紹介したいと思っています。温泉に泊まったあとの観光ルートが弱いと感じています。是非、体験型の将来的にインバウンドを狙った観光ガイドの確立も実現いただければと、湯沢市の地域産業全体が活性化し、そして雇用促進にも繋がるのではないかと考えます。以上で発言を終わります。

議長（渡部正明） 小川選子さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。宮原晃議員。

宮原晃議員 ご発言ありがとうございました。地域産業の活性化を図りたいとのテーマでご発言がありましたが、その中で、やはりあの海外に、稲庭うどんの市場開拓を行い約6年になるということで、世界29カ国に輸出実績があるということでしたが、本当に世界29カ国へ市場開拓することは容易ではなかったと思います。当然、相当の経費がかかったと思います。お話がありましたが、資金面の長期的なサポートについては私からは申し上げられませんが、湯沢市はたくさんの特産品や物産があります。小川さんからお話を聞いて、県内、国内はもちろん、さらには海外へと、販路を拡大するための開拓を今後も考えていかなければと感じました。現在、議会改革推進会議で、稲庭うどん条例制定に係る意見交換会を行っております。今回の小川さんのご意見も大変に参考になりましたので、地域産業の活性化のために協議を重ね、よりよいものにして、湯沢市の物産の販路拡大に繋がるように協議したいと思います。ありがとうございました。以上です。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。大山豪議員。

大山豪議員 手短に。円安というところに触れておきたいと思います。今大チャンスだと思います。輸出だけの販売業者ですとか、そういった企業もあるとは思いますが、何かしら行政で、こんな事例がないものかと私も研究してみたいと考えております。以上です。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、小川選子さん自席へお戻りください。ありがとうございました。暫時休憩します。再開を午後2時50分とします。

休憩 午後2時40分

再開 午後2時50分

議長（渡部正明） 休憩前に引き続き、令和4年ゆぎわ市民一日議会を再開します。次に、発言順番号8番、佐藤さくらさん、発言をお願いします。8番、佐藤さくらさん。ご登壇ください。発言のテーマは、子育てのしやすいまち湯沢。それでは、よろしくお願いします。

8番（佐藤さくらさん） 私は湯沢市立雄勝中学校3年の佐藤さくらです。よろしくお願いいたします。私は、子育てしやすいまち湯沢についてお話ししたいと思います。私たちは家庭科の授業で育児について、社会科で少子化について学習しました。その際、家庭科や社会科の授業で湯沢市の年間出生数のグラフを見ました。資料1ページ3のグラフを見てください。湯沢市で令和3年に生まれた子どもは141人でした。その中で、雄勝地域で生まれた子どもは7人でした。この数に私は衝撃を受けました。湯沢市は将来どのくらいの人口になってしまうのだろうか。不安を感じたのは3年生の中で私だけではなかったはずで、子どもは将来を支える地域の宝です。人口だけでなく、少なくなる子どもを育てるお父さんやお母さんの中で、急激な少子化が進み、不安を抱えて子育てしている人も多いのでは考え、私は、子育てをしている方にインタビューを実施しました。資料2ページ4・5をご覧ください。2名の方のインタビューをのせてあります。湯沢市で子育てする中で、湯沢市の子育てに対する政策がたくさんあってありがたいという意見がたくさんありました。反対に、課題も見えてきました。資料2ページの6をご覧ください。少子化によって、子育てを相談できる人が周りにいなくて不安を感じているお父さんやお母さんが多くなってきている。市外から来ている人たちはもっと不安ではないだろうか。土日、親子で遊べる場所が少ない。無料で遊べる場所はできないだろうか。子育てしている人たちをもっと応援できないだろうか。という3つの課題です。そこで、私は2つの提案をしたいと思います。資料2ページ7をご覧ください。1つ目は、子育てにおいて不安を感じている父親・母親が、気楽に子どもを連れていき、交流したり相談したりする場を今まで以上に充実させたい。具体的には、子育て支援センターを休日にも実施すること。無料で親子で遊べる場所を増やすこと。2つ目は、子育てにはお金がかかります。湯沢市独自の子育てサポートカードを作って、子育てを応援したい。以上2つを提案します。1つ目の提案を考えるに当たって、10月7日の秋田魁新報の記事を目にしました。資料3ページをご覧ください。この記事は、兵庫県明石市で子どもに対する政策を充実させることで、人口が増加し、子育ての不安もすこしずつ解消されたというものでした。その中でも、親子交流スペース「ハレハレ」や「おむつ定期便」に関心を持ちました。社会科の阿部先生を通じ、兵庫県明石市の子育て支援課の梁瀬さんに質問してもらい、資料4ページの12・13の回答を得ました。兵庫県明石市の子育て支援課の皆さんご協力ありがとうございました。資料4ページの12・13をご覧ください。「ハレハレ」については、明石市が公益財団法人神戸YMCAに外部委託しているものですが、湯沢市でも参考になると思います。休日でも1日400名以上の方が利用されているそうです。施設の休みは月に1日だけ。このことはなかなか難しいと思いますが、日曜日でも親子で無料で遊ぶことができる場所として、屋内のお金がかからない場所を考える余地があると思います。また、おむつ定期便については、月に1回無料でおむつを保護者に届ける。そこで見守り支援員に気軽に相談できる。きめ細かい対応、とても良い政策だと思いました。このことも湯沢市で参考になると思います。2つ目の提案を考えるに当たって、秋田県のホームページから、あきた子育てふれあいカードを調べました。中学3年生以下の子ども、または妊娠中の方のいるご家庭を対象として、協賛店ステッカーのあるお店でカードを提示すると、それぞれのお店でサービスがうけられるというものです。湯沢市でも独自のゆぎわ子育てふれあいカードを作ってみませんか。ただサービスが受けられるだけでなく、子育てをしている方と地域の方の交流につながると思います。この提案にはお金がかかります。財源の問題もあるでしょう。しかし、きっと明るい湯沢の未来が見えてくるはずです。以上で私の提案を終わります。ご静聴ありがとうございました。

議長（渡部正明） 佐藤さくらさんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。高橋健議員。

高橋健議員 佐藤さくらさん、インタビューや新聞記事、自分の取材や調査、それを通しての発言、本当に素晴らしかったと思います。私もすごく勉強になりました。ありがとうございます。先日私が所属する教育民生常任委員会というものがあるんですが、その委員会の中で行政視察について最近行ってきました。まさに子育て支援を充実している先進自治体ということで勉強してきたんですよ。まさに佐藤さくらさんがおっしゃっていた内容を進めているような内容でした。さくらさんが言うこと、その通りだなと思います。発言の中で、子育て支援の中でも参加型の交流施設というのも実際行っている自治体でしたので、本当に同じ意見だなというふうに思いました。すごく勉強されたんだなと思います。議会人として、市民の皆様の意見をもっともっと取り組んで、湯沢市の事業が素晴らしいものになるように進んでいくように、これからも湯沢愛あふれる意見をたくさん頂戴したいと思いますのでよろしくお願い致します。どうもお疲れさまでした。ありがとうございます。以上です。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、佐藤さくらさん自席へお戻りください。ありがとうございます。次に、発言順番号9番、桐谷泰輔さん、発言をお願いします。9番、桐谷泰輔さん。ご登壇ください。発言のテーマは、湯沢市に欲しい物や過去の湯沢市について、それでは、よろしくお願い致します。

9番（桐谷泰輔さん） 発言のテーマは湯沢市に欲しいものや、過去の湯沢市について、それではよろしくお願い致します。初めに言うと、僕が発言したからと言って、本当に実現する物ではない提案です。湯沢市に、こんな物やあんな施設があればいいなと思うけど、僕が、湯沢市にあればいいなと思う物は、中心街に銭湯があればいいなと思います。銭湯がないので。温泉はあるんだけど、温泉を使わないお湯の銭湯が、あればいいなと個人的に思いました。僕自身の皮膚が弱いので、温泉成分の入ってない、普通のお湯の銭湯を希望します。お風呂の無い家やお風呂のないアパートもあると思うし、生活保護の人や障がいのある人も、湯沢市の全ての人が気軽に行ける銭湯があればいいなと思いました。それが湯沢市民のためになるんじゃないかなと僕は思いました。銭湯経営は民間だと経済的に負担が大きくて長く継続することが困難なので、出来れば市で運営する、公営の銭湯がいいなと思います。料金は永久に200円から300円。もちろん公営の銭湯なので、駅や市役所近くにあるといいなと思いました。別の案を出すと、湯沢市に民間企業が出資する銭湯を作るのであれば、駅前に大きなサウナ付きのかなり大きな規模の銭湯を、作っても面白いかなとも思いました。日本一の凄いサウナ付きのスパ施設を作っちゃおうという意見も出してみました。湯沢市や秋田県の目玉になるような銭湯施設です。また、自転車屋が少なくなってきた、パンクや自転車の修理が大変なので、自転車屋も湯沢市にもう少しあればいいなと思いました。本屋さんも湯沢の街から全くなくなった場合についても今から考えた方がいいのかなと思いました。その時は、湯沢市が運営する公営の本屋さんを作ればいいなと思いました。どうすれば湯沢市がよくなるのか、医師の方と医療関係者の方から意見を貰ってきたのですが、医師の方からの意見は、湯沢市にあまり人を増やさずに、発展をあまりさせすぎず、今のままのゆっくり生きることが出来る湯沢市がいいと言う意見をもらいました。湯沢市の人達は、一人が使える土地の多さも魅力があるとの意見でした。僕も同じ意見で、ゆっくり静かに暮らせる今の湯沢市が好きです。自然も豊かだし。湯沢市は、これからは人が増えすぎず、減らなすぎない、発展もしすぎない、過疎化もしすぎない、人口密度の薄いゆっくり暮らせる湯沢市を目指せばいいなと思いました。医療関係者の方からの意見は、湯沢市に、子供が遊べる場所が全くない。もしくははぼぼない。お年寄りが集まってお話をする場所もない。子供たちやお年寄りが何処に行っている

のわからない状況にある。老人達が集まれる各町内の施設を取り壊さないでほしい。整備をして継続してほしい。子供たちが、遊べる公園や遊べる場所を増やして欲しいとの重要な意見を頂きました。僕も現状の湯沢市民の交流や憩いの場の施設の継続は、最低限必要だと思いました。湯沢市の未来を担う子供達の遊んで育つ場所の確保は、最低限必要だなどと思いました。昔の湯沢市の商店街は、商業が活発で、僕のおばあちゃんも自分の店で、生き生きして商売をしていました。その僕のおばあちゃんの話だけど、おばあちゃんは、おじいちゃんと結婚して、商店街で商売をしていました。元々どちらの家系も商人の家系の人間でした。だけど、家の相続問題によって、おばあちゃんとおじいちゃんは、子供を連れて、商店街から出ないといけなくなって、別の町内に暮らすことになりました。おばあちゃんは、いつかまた商店街に戻れる事を夢見て、別の町内で商売を頑張りました。すごくすごく頑張って商売をして、また商店街に戻って商売をして暮らすという、おばあちゃんの夢を叶える事ができました。商売で家族を養って、商売をしながら家族と一緒に暮らすという質素な夢をおばあちゃんは叶えました。そんな、あまり大きい夢ではないけど、おばあちゃんの夢のような、誰でも夢が叶うような湯沢市にしたいなと僕は思いました。以上で発言を終わります。

議長（渡部正明） 桐谷泰輔さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。佐藤功平議員。

佐藤功平議員 ご提言いろいろありがとうございました。とにかくゆっくり暮らせるような湯沢市、子供たちが遊べるような場所、それから大規模な銭湯、そういう場所を増やしていく。これ全く僕も賛成です。すごい銭湯とサウナを作るということを発言されたので、その件にちょっと意見がありますので、私もサウナ大好きな一人であるんですけども、今の湯沢市には、すごい銭湯とかすごいサウナとか全くないんですよ。だから諦めないで大いに作りましょうよ。いろいろ提言もらってる中で、ジオパーク銭湯というのがありましたが、ジオパーク巡りのコースの一つということで、これなんかをですね、例えば川原毛の大湯滝があるんですけども。これはとても珍しい。温泉が流れ落ちてくるのは非常に珍しい。こういうところをですね、ぜひ皆さんで宣伝をしながら一つの大きな拠点作りとか、これから湯沢市の観光の目玉になりうると思いますので、この辺はいいアイデアだなと思いました。ありがとうございました。お互いに頑張りましょう。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、桐谷泰輔さん自席へお戻りください。ありがとうございました。次に、発言順番号10番、菊地佐起子さん、発言をお願いします。発言のテーマは、地域コミュニティを再構築したい。それでは、よろしくお願いします。

10番（菊地佐起子さん） 地域コミュニティを再構築したい。その思いをお話しします。近年のコロナ禍により、地域、学校、家庭などにおいて、人と人の繋がりが薄れて来ています。その核となるまちづくり拠点施設が使いづらくなっているように感じています。災害の発生など、いざという時に地域コミュニティが機能していないと、救助の取り残しや1人暮らしの避難の遅れなどが起きる可能性が高くなります。先日湯沢北中学校で、「人が集う場所をどう創出していくか」をテーマに、佐藤市長と全校生徒、保護者が参加して「市長と語る会 これからの湯沢市を考える」会がありました。3年生から、サンロードの活性化とオリンピック種目も出来る、総合運動施設を作るという2つの提言について、パネルディスカッションをしました。湯沢市に新しい施設を増やすことで人が集まり、若者が増えるなど、様々な意見が飛び交い、とても有意義な時間でした。私としては、今ある施設の有効活用を考えました。既存の施設として、今まで人が集う場所として使われてきたまちづくり拠点

施設を、より地域の人が集まりやすいように運営したらよいのではないのでしょうか。しかし、施設を利用するに当たって、様々な制限が増えてきたように思います。例えば、当日利用したい体育館や部屋が空いていても、前日までに予約しなければ使用できないこと。17時15分から22時までと、土日や祝日の予約受付が出来ないこと。団体で使用する物を保管出来ないことなど、以前までは可能だったことが出来なくなってきています。10月からは2つの施設でオンライン予約の実証実験が始まりました。さっそくスマホで予約を試してみました。私のように平日17時まで予約に行けない人にとってはとても便利でした。ただし利用する4日前までしか予約が出来ず、カード決済であれば当日利用でも良いのではと感じました。また、ご年配の方にとっては予約しづらいのではないかと思います。そこで、小中学生と75歳以上の利用者は施設の予約が空いていれば、当日、体育館や部屋を利用出来るようになれば良いと思いました。私は子育てで大事にしていることは地域との繋がりを大切にしたいという思いです。それが子どもを守り、人と繋がり、防犯・防災に繋がっていくと思います。そこで、私自身が出来る、地域コミュニティの再構築をしようと考えました。湯沢市食生活改善推進員となり、減塩やフレイル予防、防災食などを地域の人たちに伝達をするボランティア活動、JAこまち女性部に加入し、会員たちとの交流、そして、湯沢市家庭教育支援「和輪人」のチーム員としての活動を通し、子育てや家庭教育に関する保護者の交流の場や、親子で取り組む防災イベントなどの企画や運営。先日は湯沢市役所と広域消防署の協力のもと、親子タイムライン講座と親子で消防署見学を行いました。さらに今年、湯沢市消防団に入団しました。アウトドア好きで防災キャンプや防災用品などに興味があり、災害時に、少しでも子どものため、近所や地域のために、何か力になれないかとの思いからです。この10年の間に、東日本大震災、熊本地震、秋田県では記憶に新しい8月の豪雨災害など、いつ何時、湯沢市にも思わぬ災害がふりかかってしまうかもしれません。地域防災は、自助、共助、公助の三つが揃わなければ成り立ちません。私が出来うることは、自助とちょっとした共助です。共助は地域コミュニティが機能していないとうまくいかないと思います。公助は行政にお願いするしか出来ません。非常時の公助は当然必要ですが、通常時の継続的な公助として、地域コミュニティの核となるまちづくり拠点施設が、より湯沢市民に寄り添うような形で運営していただけるようにして欲しいです。みんなが笑顔でふれあい、集まりやすい憩いの場として、そして学習や地域活動など、活気のある施設になると思います。以上で発言を終わります。

議長（渡部正明） 菊池佐起子さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。佐藤愛子議員。

佐藤愛子議員 菊池佐起子さん。ご発言ありがとうございます。私もこの度、広島の方に総務財政常任委員会の行政視察に行っておりまして、自助、共助、公助による地域防災の件に関して勉強してまいりました。やはり一番は、地域住民の方と、やっぱり横の繋がりを深くしてもらわなければ、私たちにも声が届きません。私の地域も今はアパートがいっぱいでありまして、住んでる人もわからない状態で、やっぱり名簿とか揃えなければならないというのも勉強になりましたし、今までの会長さんにばかり頼っているのではなくて、自分も自らその地域の人たちを知ること大切だと思いましたし、消防団として女性で頑張ってもらってみたいなので尊敬しました。今後ともいろんなご意見をこちらの市議会にお預けしていただければ、みんなで知恵を振り絞って頑張りたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございます。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。寺田純二議員。

寺田純二議員 菊地さん大変ありがとうございました。私も様々地域連携ということで、地域のこと、また、学校のPTA関係でいろいろ携わらせていただいております。今のご発言、全くの同感でございます。やはり地域コミュニティの希薄さが非常に感じられて、もっともっと我々50歳代が頑張らなければと感じました。先ほどお話の中にありましたが、10月から岩崎地区センターと三関地区センターのデジタル化が進みまして、ネットで申し込みできますけれども、我々は使いやすいんですけれども、なかなか使いづらいという方からもたくさん声を聞いております。もっともっと皆さんが気軽に使いやすいような仕組みづくり勉強していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。本日は大変ありがとうございました。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、菊地佐起子さん自席へお戻りください。ありがとうございました。次に、発言順番号11番、山内蓮さん、発言をお願いします。11番、山内蓮さん。ご登壇ください。発言のテーマは、若者が集まるゆぎわにしたい。それでは、よろしく申し上げます。

11番（山内蓮さん） こんにちは、山口蓮と申します。今日は若者らしく、斬新な意見を提案させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。まず大前提として、私には故郷である湯沢市がさらに良くなってほしい。また、大きくなってほしいという強い思いがあります。この思いを反映させるためには、市が抱えている様々な課題を解決することが一番だと考えました。そこで、私は湯沢市が抱えている問題点を考えたときに、現在の湯沢市は人口減少が一番の課題であると考えました。これを解決するためには、私は湯沢市の関係人口を増やせるような取組を行うべきだと考えます。要するに、新しく「何々のまち湯沢」ということを打ち出して、湯沢市のファンを増やしていくということです。また、そのターゲットとしては、やはり若者を据えるのがいいでしょう。なぜなら現在、湯沢市は少子高齢化というまた別の課題にも直面していると考えます。そこで、若者にファンになってもらうことで、課題であるその少子高齢化を、出生率を上げるという視点から解決する方向に持っていけると考えたからです。以上のことから、私はこの課題を解決するためには、何か若者にさせるような新しい取組を行っていくべきだと考えました。そこで私は、ゲームのまち湯沢と銘打って、家庭用ゲーム機を集めた交流場所を新しく提供するというのを提案させていただきたいと考えます。具体的には、ニンテンドースイッチであったり、プレイステーション4・5といった人気の家庭用のゲーム機を集めます。それを、シャッター街などに集めて、いわばゲームセンターのようなものを作ろうというものです。まず第1に、私は若者には一番何が刺さるのかという点について考えました。スポーツや読書、料理などにとどまらず、最近は趣味が様々に多様化しています。けれども昔から変わらず若者は、すべからずゲームが好きだと私は考えております。実際に若者の過半数がゲームが好きだというデータも挙げられているほどです。現状数ある家庭用ゲーム機を満足に全て遊べているのは、時間とお金に余裕のある人や、より多くのゲームを楽しみたいという思いのあるゲームの好きな人のような限られた人だと考えております。むしろ、私のようなそういったゲームに興味はあるけれども敷居が高くて手が出せていないという人がほとんどです。そこで、私のようなタイプの多くの人たち、いわゆるエンジョイ勢に向けた発信をすることで、かなりの集客が見込めると私は考えました。また、この取組は、全国的にも非常に珍しいものだと私は考えております。逆に、アーケードゲーム用か筐体を個人が買ってプレイするというのはありふれています。けれども、家庭用ゲームを集めた場所の提供という取組は私の調べた限り見つかりませんでした。そのため、SNSやテレビCMなどを用いて、様々なメディアから全国的に発信するということができれば、全国からもこれを目当てにした人が湯沢市にくるようになると考えました。そして、シャッター街を利用する理由としては、ひとえに湯沢市内に活気が戻ると感じたからです。シャッター街は昔、様々な店舗が入っており、大変賑わっていたと伺っております。その場所を再利用することで、かつてのにぎわい

を取り戻せるのではないかと思います。また、駅に近いシャッター街は、市外からいらっしゃる人たちのアクセスが良いというメリットもあります。さらに、エプソンをはじめとした市内企業との連携もできたらさらにいいと思います。以上のことから、私はこの家庭用ゲーム機を集めた場所の提供という取組を進めていくことで、湯沢市の人口減少や少子高齢化といった課題にブレーキをかけることができるだけでなく、湯沢市に今よりも大きな賑わいをもたらしていくことができると思い、提案させていただきました。以上で発言を終わります。ありがとうございました。

議長（渡部正明） 山内蓮さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。小田嶋秋一議員。

小田嶋秋一議員 なかなかこういう議場では出ないご意見ありがとうございます。この間も新聞で、秋田県の人口が3月に94万人を切ってから、7カ月で93万人を割ったというようなことでした。人口減少がすごい勢いで襲ってくるという報道がありました。そういう中で、6月頃です。NHKの移住という番組を見ていたら、横浜の横須賀地区にある空き家にeスポーツの選手が移住してきて、当初はその地元を受け入れられなくて、特に老人が多いところらしくて、なんだそれって言う目で見られていたんですが、その若者たちが、自治会とかに押し掛けてどうかお願いをして、いろんな説明して、eスポーツはこんなに楽しいんだよっていうのを教えたところ、おばあちゃんとか非常に興味を持ち出して、最後にはその自治会長もそのeスポーツの応援団になって、大会に応援しに行くというような内容でした。やはりそういういろんなことがあっても、地元の理解と一緒に進めていくというのが非常に大切なのかなというふうに感じました。ぜひそういう観点も含めて、お互い頑張ってください。ありがとうございます。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、山内蓮さん自席へお戻りください。ありがとうございました。次に、発言順番号12番、佐藤文男さん、発言をお願いします。12番、佐藤文男さん。ご登壇ください。発言のテーマは、未来への投資 子育て支援の一環として。それでは、よろしくをお願いします。

12番（佐藤文男さん） 皆さんこんにちは。民生児童委員の佐藤文男と申します。教職を退職し8年目となります。早速ですが、私のテーマは、未来への投資子育て支援の一環としてということで、学校給食の無償化についてお話をさせていただきたいと思います。さて、経済の話になりますが、日本は1990年代バブル崩壊により景気の低迷が続き、令和になっても改善が進んでいない状況です。また、この間新興国の台頭などもあり、日本経済の競争力が低下しました。企業は経営立て直しが求められ、リストラや非正規の採用者が増えるなど、これまでの終身雇用のあり方に大きな影響をもたらしました。近年は気候変動や新型コロナのパンデミック、さらにロシアによるウクライナ侵攻で、景気の先行きが見えません。こうした経済状況は社会に生活不安と貧富の格差を生み、それが学力の格差につながっていると言われていています。生まれた家庭の経済事情で十分な学力が身に付かない、家族のために夢を諦める、そんな不合理なことがあっていいのでしょうか。私は、断固あってはならないと思います。そこで本題ですが、子育て世代のあるお母さんに小学校にかかるお金のことを伺ったところ、給食費は一食280円、授業で使う副教材費や技能教科の材料費などはその都度集金されることでした。給食費だけを考えますと、月5千円だとすると年間で6万円、義務教育9年間では54万円となります。子供の多い世帯では兄弟が一人増えるごとに2倍、3倍となるわけです。もし、給食費が無償化になれば学費が軽減し、子育ての後押しとなるでしょう。また、子育て世代の流出を食い

止めることや、他の地域から住民を呼び込むことが期待され、少子化や人口減少改善の施策になると言えるのではないのでしょうか。そもそも学校教育は、知育、徳育、体育、それに食育を加え、この4つが教育活動の大きな柱となっています。平成17年7月15日に施行された食育基本法の前文（抜粋）には、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付ける。さらに、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育てていく基礎となるものであると明記されています。この10月1日より学校給食の無償化をスタートさせた青森市ですが、市のPTA連合会では、学校給食の目的に、生きた教材として、地場産物、郷土食を提供することを通して、地域に寄せる心を育むなど、食育に資する役割を担っていると掲げています。こうしたことを踏まえますと、学校給食は、食育の根幹であり、国語や算数と同等であると考えられますし、同時に憲法で保障されている義務教育無償化の精神からすれば、学校給食が無償化でないのは理屈に合わないように思えるのです。一方で公的資金を使うことに、それは受益者負担だろうという声もありますが、子どもたちの明るい未来を保障してやるのは、私たち大人の責務と考えます。ですから未来への投資いつやるのでしょうか。と問われれば、答えは自ずと「今でしょう」ということになるわけです。最後になりますが明治22年山形県鶴岡町、現在の鶴岡市ですが、大督寺というお寺の中に建てられた小学校で、当時の僧侶が一軒一軒家をまわり、お経を唱え、お金や食材を集め、無償で子供たちに食事を提供したのが学校給食のはじまりと言われています。この慈悲深い行いに学んで、わが湯沢市でも未来ある子供たちのために、未来への投資として学校給食の無償化を切に希望し、私の主張を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

議長（渡部正明） 佐藤文男さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。佐藤勝議員。

佐藤勝議員 佐藤文男さん、非常に学びのあるご発言ありがとうございます。佐藤さんは60代ということで、子育てにはもう一段落ついた方であろうと思います。こういった世代の方々がですね、私のような子育て世代真っ只中の人間に対して、こういった発言をしていただくのは大変勇気をもらったところでございます。先週ですね、石川県の方に行行政視察に行っていました。視察のテーマは子育て支援に関してでございます。この視察先では学校給食の無償化、これを実現されておりました。非常に子育てに対して力を入れてるところで、やはり首長が先頭となって力を入れてるところでございました。また、給食費の無償化だけではなく、公営の体育館を利用して、そこに大型遊具を持ち込んで遊ばせるといった支援策も行っていました。そういった骨太のプロジェクト政策。そういったことが、まだまだ湯沢市には足りないのかなと思っています。今後ですね、今佐藤さんからご提案ありました内容を踏まえて、前向きに、力強く私どもの政策提言、提案に向けて邁進して参りたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。ありがとうございました。以上です。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、佐藤文男さん自席へお戻りください。ありがとうございました。次に、発言順番号13番、高橋節子さん、発言をお願いします。13番、高橋節子さん。ご登壇ください。発言のテーマは、失敗を恐れずに新しい試みを。それでは、よろしく申し上げます。

13番（高橋節子さん） こんにちは。13番高橋節子です。今回このような場所で発言する機会を与えていただきありがとうございます。まず初めに、このテーマに至った理由として、以前、議会を傍聴したとき、湯沢の音楽のまちと謳っているの、ストリートピアノを街中や駅に置くことは検討で

きないかという質問があったこと。コロナ交付金を配る際に、紙ではなくペイペイを利用してはどうかということが行政側から話が出ていて、両方の案とも通らなかったことです。ピアノの方は、周辺住民から苦情が出たら、必要なアナウンスを聞き逃したら、ピアノにイタズラされたらと。ペイペイの方は、一部の利用者には利点がないのでは、高齢者はペイペイを使えないからなどという返答があったように記憶しています。私はどちらのアイデアもいいなと思っていたので、一度試しにやってみればいいのにと思いました。でも確かに市の舵取りを任されている人たちは重大な責任を負っていますので、失敗が許されないという思いから、慎重になるのは当然のことでしょう。それで、この残念な結果を家で私が話したところ、子供から言われた一言に、私はドキッとしたのです。お母さん、失敗したら駄目なのと。学校では手を挙げてみんなの前で発表するとき、間違ってもいいから自分の意見を言おうと教わります。なぜ駄目なのか、どこを直したら良くなるのかは間違っていなければ気付かないからです。でも、失敗を怖がって、新しいことを何も言わない無難なことばかりをしていたら、新しいことは排除され、若い人はつまらないんじゃないでしょうか。パソコンのバージョンアップも慣れるまでは不便に感じますが、慣れてしまえば、今までより使いやすいなんてこともあるではありませんか。私達大人は、子供の伸びしろを潰してまで、あれも駄目これも駄目とは言わず、新しいことに挑戦するのを見守ることもあるでしょう。それと同じです。市でも新しいことを試し、どんどん失敗してみませんか。例えば、新しい試みの例として、公共施設や公園使用の申し込みなどウェブやメールできたら良いのではないかと考えていたら、たしか10月から新たに一部の地区センターでウェブ受付が始まっていたよ。先ほどの菊地さんもおっしゃっていました。これは大変素晴らしいと思いました。日中働いている若い人たちが申請しやすくなり、大変助かっていることでしょう。こうやって、申請のハードルを低くすることで、もっと活用しよう、もっと新しい利用方法を見つけようとなるかもしれません。また、利用料などの支払いは、現在クレカ払いができるようですが、もっと使いやすいペイペイ等の決済も一緒にできれば、もっと若者にも浸透しやすいのではないのでしょうか。さらに、公共施設だけにとどまらず、公園や緑地や夏のスキー場、使われてない公共施設の一角なども、施設利用として貸し出せば、スケボーや3対3のバスケットボールやキャンプなんかにも使えると思うのです。さらに発展させたら、新しく駅前にできる複合施設に貸しスペースを作って、そこでコスプレ用の衣装制作をしたら、ハロウィンパーティーができるなんていうこともあり、稲庭城や小町堂や市の文化財などでコスプレ撮影会ができるなんていう事業ができたら、SNSでバズり、若い人たちも面白がってやりたい。参加したいと思うような気がします。こうやっていろいろ考えるだけでなんだかワクワクしませんか。ちなみに先ほど高齢者はペイペイを使えないのではという話がありましたが、私的には高齢者にこそ、キャッシュレスをおすすめします。小銭がよく見えない、指がうまく動かないとの理由で、紙幣での買い物が多くなり、財布や家の中が小銭であふれてしまうなんて悪循環が起こっている人たちがいたからです。確かに新しいことを覚えて使うのは大変かも知れませんが。覚えてしまえばキャッシュレスすごく楽ですよ。反対した議員さん一度使ってみてください。ここまで喋ってきましたが、私は決してペイペイを推奨したいわけでも、ピアノを街中に置けとも言いにきたわけでもありません。新しいことにどんどん挑戦してほしいと言いに来たのです。できないことをできないと言うのは簡単ですが、やりたい事を出来るようにするためにどうしたらいいのかを一緒に考えてほしいのです。どうか思考を止めないでください。どうせできないと諦めたらそこで試合は終了なのです。狭いコミュニティの中で、縮こまっている若者たちに、もっと新しいことや楽しいことがあるんだと伝えたい。スマホやパソコンの画面の中ばかりでなく、もっと外の世界にも目を向けて自分から新しいことを求めてほしいです。自分がワクワクしてやっていることはきっと自分の自信にも繋がり、都会では見つからないこの地にしかできないものが見つけられるかもしれません。これからは市民一人一人が行政に注目し、自分に関係ある大事なことと思えるような、そんな話を私は希望します。どうか素敵なワクワクが発信されることを切に願ひまして、以上で今日の私からの発言を終わります。

議長（渡部正明） 高橋節子さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。高橋肇議員。

高橋肇議員 高橋節子さん大変にありがとうございました。今のお話を聞いて本当にワクワクさせていただきました。本当に高橋さんが言われた通りに、深く失敗を恐れてしまえば進まない。ですけども、やはりどうしても年を重ねるごとに自分を守りたくなるということを感じておりますけども、今話を聞いて、年をとればとるほどワクワクするような湯沢市にしなければならないなということを改めて感じさせていただきました。当然市の方でもなかなか先行事例がないと進めないというようなことでありますけれども、それではやはり現状のまま、むしろ後退していってしまうというようなことでございますので、ですから失敗を恐れない、その通りだと思います。反対する理由があれば、反対といういろいろな問題があれば、その問題を解決するためにどうすればいいのかを考えながら進むというのは非常に大事だなというふうに思っております。今日それぞれ若い方々の力が大事だということで佐藤拓弥さん、また、山内蓮さんもお話ありました。また、高橋さんの方からもあった通り、若い人たちがこの湯沢市に住んでいける。楽しいなどってもらえる。そのような湯沢市をつくるためにもぜひですね、失敗を恐れないようなこの湯沢市のまちづくりに励んでいかなければならないなということを感じさせていただきまして、また、私達も高橋さんと一緒にいろんなことを考えながら進んでいきたいとこのように思っております。今日は大変にありがとうございました。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、高橋節子さん自席へお戻りください。ありがとうございました。次に、発言順番号14番、鈴木義昇さん、発言をお願いします。14番、鈴木義昇さん。ご登壇ください。発言のテーマは、明日の子供達の未来。それでは、よろしくをお願いします。

14番（鈴木義昇さん） 本日はこのような機会を設けていただき、ありがとうございます。3歳の娘を育てる父親目線で発言させていただきたいと思っております。前半から原陽奏さんが答弁されましたが、湯沢市における遊具施設、大変少ないんです。近隣の町にあるアルカディア公園、雄勝の道の駅の公園に比べ、旧湯沢市の遊具施設は見劣りする場所がたくさんあります。そして、移動手段のない方は大変難儀な思いで遊びに行きます。そして、旧消防署後地に複合施設ができると聞きました。そのこのひと部屋ではなく、ワンフロアをぶち抜いて、そこに子供が遊べる、1日遊んでクタクタになるぐらい楽しめる場所を作っていただけないでしょうか。そして、そこに予算計上していく考えはありますでしょうか。予算に限りはあるとは思いますが、根本的な遊具施設の改革をお願い申し上げます。そして二つに、子供の児童手当について発言させたいと思っております。児童手当は子供が3歳になりますと、1万5千円から1万円に削減されるんです。3歳と言いますと、幼稚園や保育園の入園など、いろいろな準備にお金がかかるときです。保育園のバック、靴、服、布団など、いろいろ準備をするときに、何で1万5千円から5千円削減されるのでしょうか。国や市町村は人口減少と言いますが、子供は国の宝と話しながら、真逆の逆行政をしていないのでしょうか。子供は未来の宝。明日の未来を支える根幹でございます。ぜひ、湯沢市で子供が宝と話すなら、独自支援、独自補助を出す気持ちはないでしょうか。兵庫県明石市では、市長のやり方次第では人口が増え、子育てしやすい街づくりがされています。人口や予算規模は違いますが、一概には比べられません。ぜひ、この湯沢市におきまして、湯沢市に住んで良かった。湯沢市で子育てして良かったという湯沢市にしようではないでしょうか。福祉が一番、暮らしが一番の湯沢市に。議会議員の皆様、市役所職員の皆様、そして我々住民が知恵を出し合い、暮らして良かった、生まれて良かったの湯沢市にしようではないでしょうか。本

日は、大変貴重な体験させてもらって、ありがとうございました。休日に湯沢市議員の皆様、職員の皆様、大変感謝申し上げます。これで発言を終わります。

議長（渡部正明） 鈴木義昇さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。高橋克己議員。

高橋克己議員 鈴木さんありがとうございました。鈴木さんの言う通りですね。本当に子供たちの遊ぶ場所が無くなってしまいました。各地にですね、広場や公園、何々町内公園とか農村公園という場所はあるんですよ。かつては、合併する前まではそのいろんな広場に遊具が置いてあったんですよ。それがやはり老朽化によって壊れてくる。最初は少し修理したんですよ。しかし追いつかない。壊れていくのに。結局撤去しちゃった。何も無くなっちゃったんです。ただ広場だけが今残っている状況です。やはりそこで今の方々は、自分の家から何か持っていったり、いろいろ工夫して遊ばせていると思います。新たな公園を作ったらって言ってもなかなかそれもお金もかかるもんでできてこない。前森公園を改修したときに、少し遊具を整備しました。湯沢市役所の前の広場のところもちょっと遊具を整備しました。これぐらいなんですね。新たに作ったものは。先ほど沓澤議員が話していましたけれども、八面地区の方々が、スキー場に隣接した八面の山の部分に公園整備をしているんです。民間の方々です。これ民間でやっていて、行政はまだ全然手助けしてないんですよ。こういうものも含めて、全部やれるわけではないんですけども、私達がやっぱりそこに少しずつ提案していきたい。鈴木さんが言われたことを。そういうふうを考えています。それから今日いろいろと人口減の問題、それから高齢化の問題について、ほとんどの方がお話してくださいました。原陽奏くんからは、今言われた子育ての問題、そして子供たちの遊び場の問題。それから若い方々が集まる場所の問題、いろんな提案をされて、行政からもいろいろ話を聞いているんですけども、なかなか進んでいかない。特にお話のあった駅前複合施設。私達はこれからもっと提案していかなくちゃいけない。特に室内の遊び場というのは皆無だと思えます。あるのは、保育園や幼稚園の中にある遊び場程度。そこに通っていない子供はなかなかそこにいけない。子育て支援、大変な重要な問題ですので、この中にも今、鈴木さん言われたようなものも含めて、私達一緒に検討して、提案していきたいと思えますので、この後も応援よろしくお願ひしたいと思えます。以上です。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、鈴木義昇さん自席へお戻りください。ありがとうございました。次に、発言順番号15番、田村昭學さん、発言をお願いします。15番、田村昭學さん。ご登壇ください。発言のテーマは、地方の地域活性化に必要なこと 人口増加と経済効果。それでは、よろしくお願ひします。

15番（田村昭學さん） 毎年冬になると雪が積もります。いつも雪かきをしているんですが、雪かきをしている途中で、この雪解け水が難病の特効薬の材料になったらどれだけ湯沢市が潤うだろうな。なんていう妄想をしながら雪かきをするようになりまして、そのおかげで雪かきの時間がかかなり長くなってしまっている。そんな妄想が尽きない50代半ば手前になりました田村昭學と申します。よろしくお願ひします。テーマは地方の地域活性化に必要なことと人口増加と経済効果、その経済効果はちょっと訂正して経済成長というふうにしていきたいなと思えます。資料を作りました。言いたいこととお話すると10分や20分じゃ足りなかつたので、言いたいことを資料にまとめたならば、話すことが何か少なくなってしまうまして、約20年で10個厳密に計算すると25年ぐらい考えておりました。25年ほど前からずっとこういうことを考えておりました、あちこちでいろんな人と会ってお話しをすると、

どこに行っても人が少なくなった、お客さんが少なくなった、子供たちが少なくなった、そういう声が方々から同じ声が聞こえてきます。不満ばかり聞いていると、自分に何ができるんだろうかということを考えるようになりまして。大学が終わってこっちに戻ってきてから何年かして、イベントも、何かこう、毎年似たり寄ったりだなということを思いまして、そんなときに、まずあのサンエーがあった頃にそこの主催でゲーム大会があったんですね。そのゲーム大会に参加して面白かったんですが、その大イベントは1回きりでした。あのイベントを他でやってくれないかなと思ってはいたんですが、どこもやってくれないから、じゃあ自分で動いてみたらどうだろうと。ゲーム機がありまして、プロジェクター買ってスクリーンを用意して、1人で宣伝して何人か来てくれまして自己満足で終わりましたけれども、1人でもやろうと思えばできるんだなということを実感しました。ちょっと寄り道になってしまいました。そのような何も無いところでも、工夫次第で賑やかになる。大きな組織に頼らなくても個人でも動けば何とかできるのではないかと。自分なりにいろいろ考えてみようということから、その地域の活性化について考えて、出てきた答えが、その私の用意した資料の1、活性化とは、人口増加と経済成長、この2点です。これはどのようにもたらすかっていうと、人口増加や、もちろん出生数の増加、あるいは外部からの転入、経済成長も外部からのお金が市に入ってくる。こういうことから、外部の者の意思によって活性化するのではなかろうか。外部の人間はどのようなことによって動かされるかっていうのは、県内でも成功例というかありまして、能代工業のバスケットボール部は、県外から志望して入部される方があったようです。能代工業ではなくて、これを湯沢市に置き換え、バスケットボール部を何かの事業に置き換え、そしてその目的を人やお金が来る。そういうものに置き換えたらば、現状の湯沢市でも何とかできるのではないかとということから、資料をずっとお読みいただければわかると思うんですけども、じゃあ自分1人で何ができるかっていうと、結局個人単位でいうと所得の増額ということになって、じゃあその所得の増額についてどういうことがあるかっていうと、4番の方ですね。結局娯楽の方に入るんですね。娯楽だと、例えば、国内の漫画5千億円、アニメ2千5百億円の経済効果があると。こういう作業は、こういう田舎でもできるということを強く訴えて、そしてそれを今自分の生活の中で取り組んでいるところであります。時間が来たようなのでここで終わらせていただきますが、このようなお話を聞きたい方はいつでも受け付けております。以上で私のお話を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

議長（渡部正明） 田村昭學さんの発言が終わりました。それでは、発言内容に対し、感想や意見はございませんか。柏原久寿議員。

柏原久寿議員 有終の美を飾っていただきましてありがとうございます。地域活性化のために、25年以降ということで、本当に意味深い、また、高度なお話いただきました。資料を見させていただきましたけども、たいへん中身の濃い資料でありまして、参考にしたいなというふうに思っております。田村さん個人でできること、また、経済効果、効率化ということで、いろんなことを考えていらっしゃるなというふうに思いまして、大変ありがたく、我々も田村さんに負けないように、いっぱい勉強しながら湯沢市の活性化のために頑張っていきたいというふうに思います。以上です。

議長（渡部正明） 他に感想や意見はございませんか。ないようですので、田村昭學さん自席へお戻りください。ありがとうございました。以上で、ゆぎわ市民一日議会議員の発言は、全て終了いたしました。これもちまして、令和4年ゆぎわ市民一日議会を閉会いたします。皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

（閉会 午後4時03分）

5)スナップショット



受付(4F議事堂にて)



当日の流れを説明しています



メモメモ…



配布資料を確認中



本番前のリハーサル



緊張の面持ちで…



藤田健志広報広聴委員長(司会)



渡部正明議長あいさつ



発言順番号1番 鈴木咲良さん



発言順番号2番 佐藤拓弥さん



発言順番号3番 原 陽奏さん



発言順番号4番 小崎嘉純さん



発言順番号5番 佐々木透さん



発言順番号6番 福田 雛さん



発言順番号7番 小川選子さん



小川さん発言後に休憩(8番以降は後半の部)



発言順番号8番 佐藤さくらさん



発言順番号9番 菊地佐起子さん



発言順番号10番 桐谷泰輔さん



発言順番号11番 山内 蓮さん



発言順番号12番 佐藤文男さん



発言順番号13番 高橋節子さん



発言順番号14番 鈴木義昇さん



発言順番号15番 田村昭學さん



議長 13番！！



この瞬間が緊張マックスです



議員が感想や意見を述べました



貴重なご意見やご提案ありがとうございました



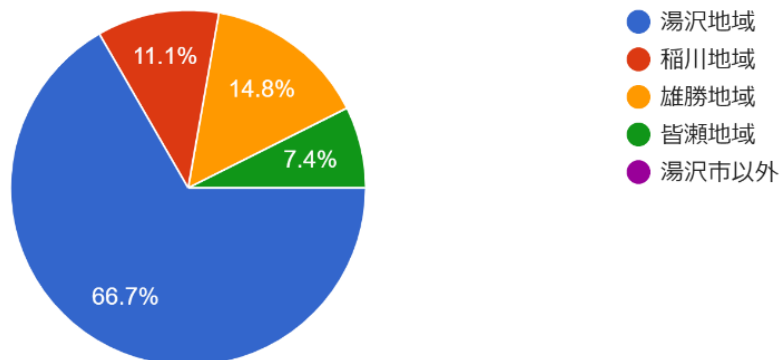
終了後に記念撮影 皆さんたいへんお疲れ様でした。次回もぜひご参加ください！！

5. アンケートの集計結果

1) アンケート(参加者・傍聴者)

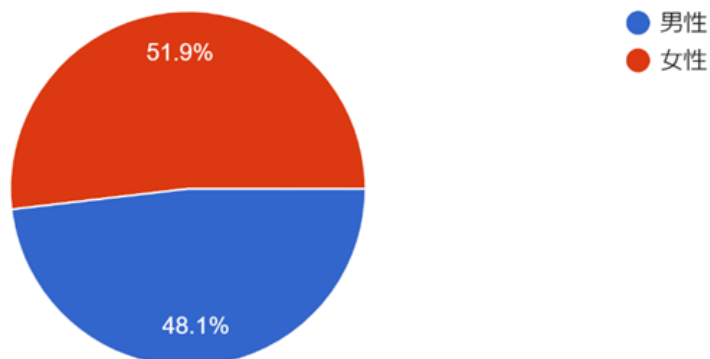
お住いの地域をお知らせください。

27 件の回答



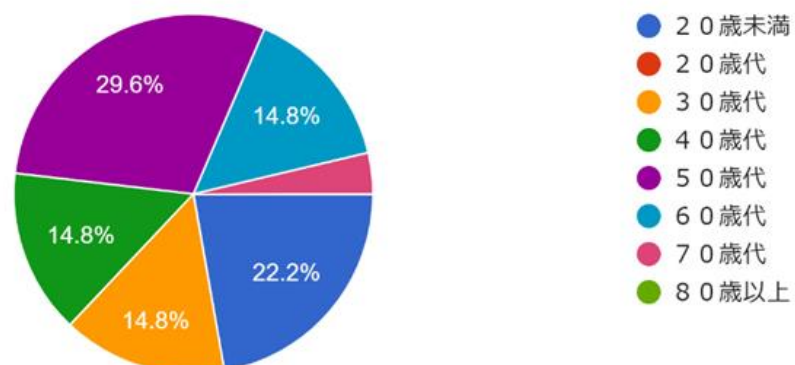
あなたの性別をお知らせください。

27 件の回答



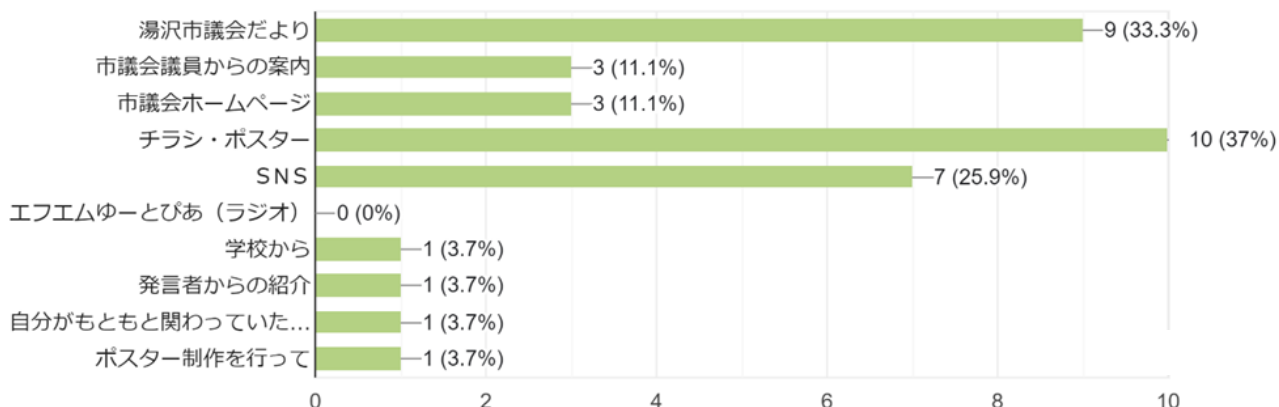
あなたの年代を選択してください。

27 件の回答



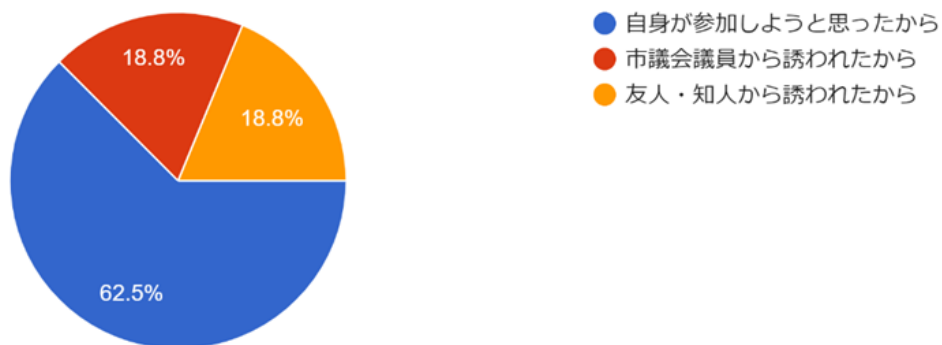
ゆざわ市民一日議会の開催について何で知りましたか。

27件の回答



ゆざわ市民一日議会議員として参加したきっかけを教えてください。

15件の回答 ※参加者のみ回答



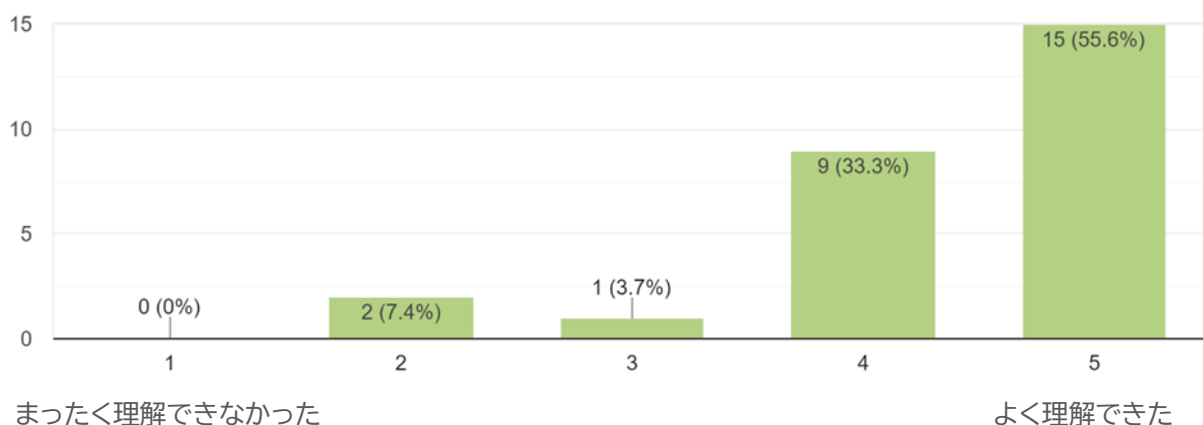
ゆざわ市民一日議会を傍聴した理由を教えてください。

12件の回答 ※傍聴者のみ回答

ゆざわ市民一日議会に興味があったから	41.8%	ゆざわ市民一日議会議員の家族や友人だから	25.0%
家族・友人・知人に誘われたから	8.3%	ゆざわ市民一日議会議員が知り合いだから	8.3%
生徒の引率	8.3%	普段から市議会を傍聴しているから	8.3%

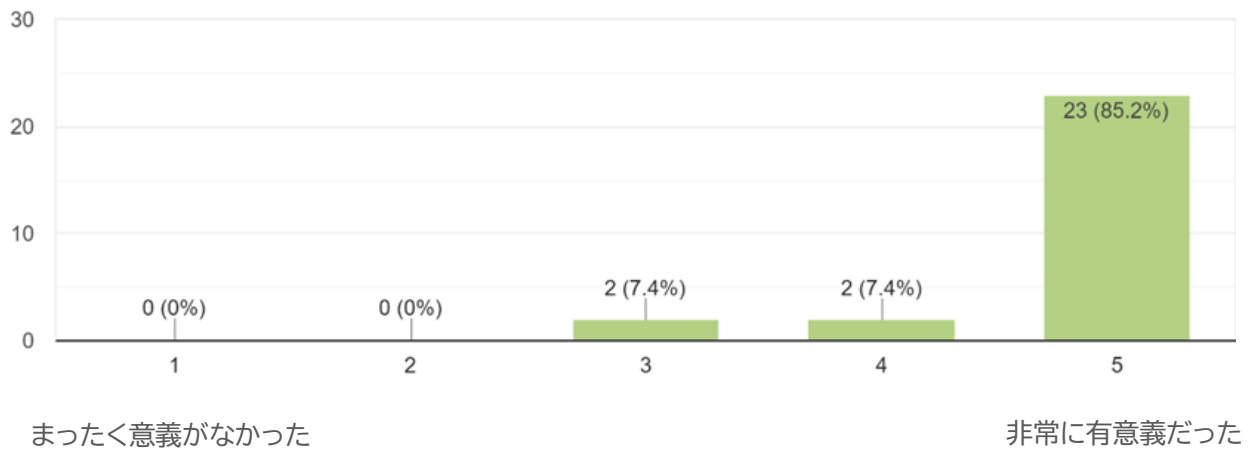
議長による市議会の活動報告について、内容（広聴活動の目的など）を理解できましたか。

27件の回答



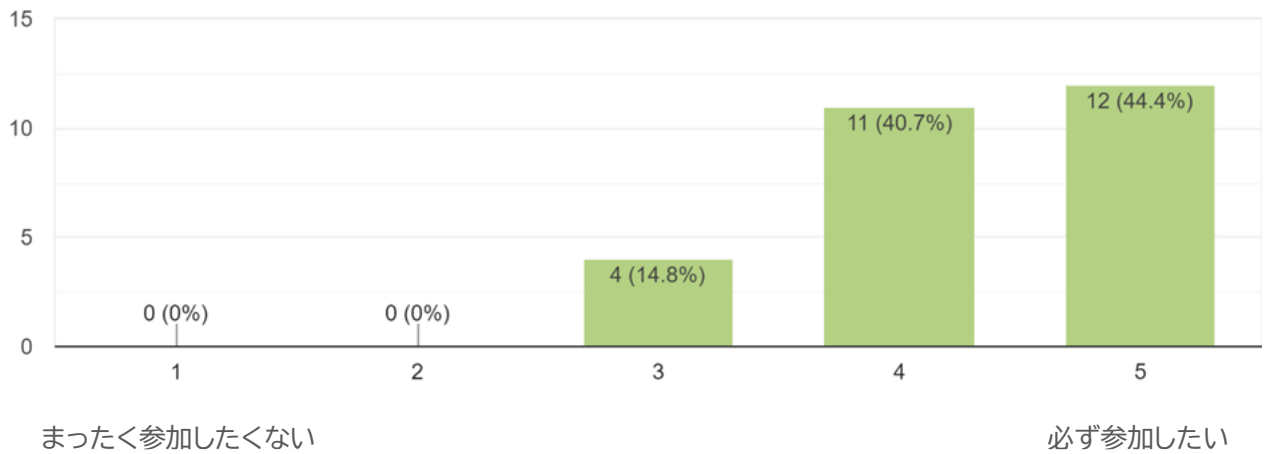
ゆざわ市民一日議会の取組について、どのくらい有意義だと感じましたか。

27件の回答



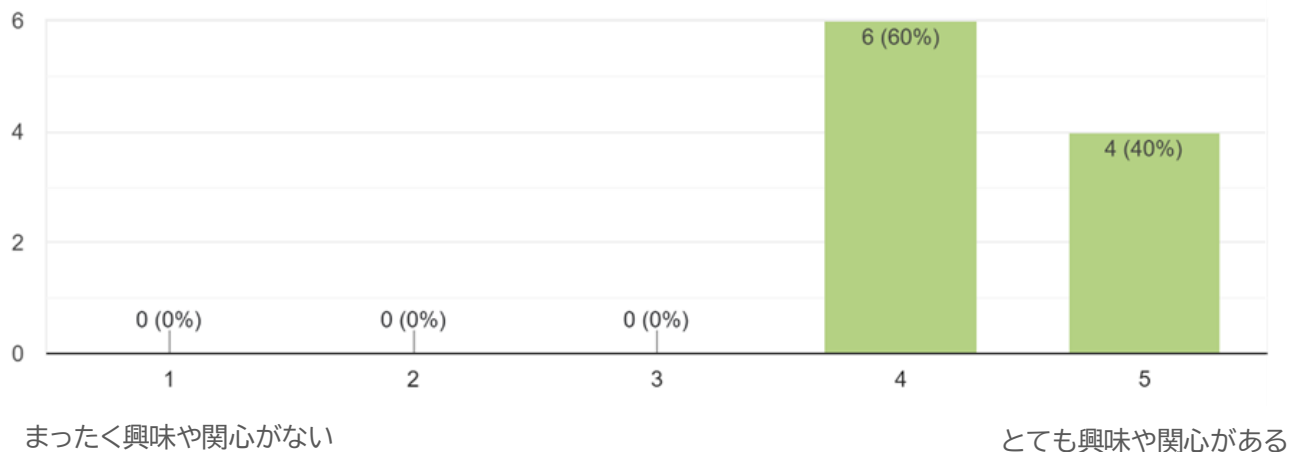
ゆざわ市民一日議会に次回も参加したいと感じましたか。

27件の回答



あなたは市議会の活動に興味や関心がありますか？

10件の回答



ゆざわ市民一日議会に参加して、「気付き」や「発見」はありましたか。

21 件の回答

学生の皆さんが、関心を持っているのがわかりました。

議員だけではなく、市長にも同じ会場で聞いてほしいと思いました。普段から思っていることを発言できるとてもいい機会だと思いました。皆、湯沢が好きなんだ。だからより良くしたいという想いが伝わり良かったです。年齢、性別、地域に関わらず、オールゆざわで湯沢の良さを享受できるようにしたい。そのために市民が活動できる場や場所を作ってほしい。人の力を発揮できるようにするのが大事だと思います。

特に小学生、中学生、高校生の希望のある意見、町(湯沢)が大好きだという声に感動しました。

市民一人一人行動していることや湯沢のために何か自ら出来ることを実行していること。

いろいろな「ゆざわ」に対する思いを持っている方がたくさんいることが分かり、とても有意義な時間でした。

湯沢は今よりもっと！！と考えている方がいらっしゃることが大きな発見でした。それぞれ各分野での現状と課題に向き合われていて、いろいろなお話が聞けて面白かったです。

定員を上回る発言者の数を見て、湯沢市への思いを持つ人が多いことに感動しました。小学生の発言者が居たことが正直驚きでしたが、しっかり堂々とした発表素晴らしかったです。

議会のイメージが「かたくなるしい」「自分には遠い」だったんですが、今回参加してみて、意外と話すことができました。次回も機会があれば参加したいと思います。

色々な意見や考え方について若い人たちから身近な問題を話してもらったことは大変勉強になった。

子育ての提言が何人かいましたが、自分の活動にも支援する場があります。もっと情報や活動を広げていきたいと気付きました。

15人ともそれぞれの視点で様々なことを提案されていたが、どの人も湯沢市を良くしたいというピュアな気持ちから意見を出していたと思う。

色々な人の話を聞いて自分が知らない湯沢がまだまだあるなと気付くことができました。

話をする持ち時間が足りなかった。

今まで知らなかったこと、知ろうとしていなかったことでいろんな動きがあるということに気付くことができ、良い経験になりました。

発言された皆さんが危惧している課題や問題はある程度同じだと感じた。

湯沢市の未来について、学生が思いを巡らせていることに頼もしさを感じました。

議会について、初めてしっかり知ることができた。とても有意義だった。

各目線が違う人にはいろいろな考え、不便があることに気付きました。

少子高齢化などが深刻化していると気付きました。

いろいろな意見があって勉強になりました。

皆さんが表情よく、とても聞きやすく、プレゼンの上手さに感心しました。

自由記述(ご感想やご意見などをお聞かせください)

15 件の回答

一日議会だけですとセレモニーで終わってしまいます。市議を交えての市政意見交換等を増やして、市政に反映できるようにして欲しい。

子供たちの発言をしっかりと聞いて下さりありがとうございました。受け止めて頂けるとうれしいです。

通常の議会より面白かったです。学校の生徒会などで議場を使うことはできないでしょうか。今日の発言をラジオでも紹介できないでしょうか。市政のひろばとか・・・

雄勝中学校で社会科を担当しています。生徒が地域の政治を身近に感じられるように、市議会を活用する方法を考えたいと思います。

議会改革の動き、市民からの意見を拾い上げる活動の新たな機会としてとても良いことだと感じました。1人でも多くの市民が大好きな湯沢市に対する思いを発言できる場、また、発言の一部でも具体化につながる場として、とても有意義な取り組みと感じました。議員の皆さん、職員の皆さん、準備・運営とたいへんお疲れさまでした。とても有意義な時間でした。

議会は楽しい！！と伝えていくといいと思います。

5分から10分くらいの時間があれば良い。ありがとうございました。

これからも長期的かつ定期的に市民の声を取り入れるような場を設けることで、より市としての力が上がっていくと思った。

ポスター制作をしました。自分が思っているよりもたくさんの方が参加してくれて、とてもうれしかったです。貴重な機会をいただきありがとうございました。

本日参加した皆さんと今後もつながっていけたら良い。

このような機会を与えていただきましてありがとうございました。

いろんな人の意見を聞く姿勢が大切なので、目先を変えながら新しい試みをしてほしい。

緊張したけどミスなくて良かったです。

緊張したけどおもしろかった。

議員の方々の感想なども良かったと思いました。専門的な内容でもわかりやすく感想を述べられ、どの発表に対しても真摯な受け答えで、しかも前向きなコメントでした。私たち発表者にとっては、満足のいく講評になったかと思います。市議会を身近に感じた一日でした。

6. ゆざわ市民一日議会を終えて

1) 湯沢市議会第4回(12月)定例会一般質問

令和4年12月5日及び6日に行われた第4回定例会本会議における一般質問では、ゆざわ市民一日議会で提案された意見などに関連した内容の質問がありました。一般質問の質疑については湯沢市議会YouTubeチャンネルで動画を公開しております。以下のQRコードをお読み取りいただき、ぜひご視聴ください。

湯沢市議会議長 様

湯沢市議会議員 (2番) 高橋 健

項目	質問事項 / 細目・質問内容	答弁者
1	湯沢市ゼロカーボンシティ宣言について	
①	本市における地熱開発が、市民への恩恵とサービス向上に繋がる明確なビジョンや具体的な施策が示されていない中で、他力本願的な施策や抽象的な将来像ではない、ゼロカーボン達成に向けた明確なビジョンを伺う。	市長



湯沢市議会議長 様

湯沢市議会議員 (14番) 石川 隆一

項目	質問事項 / 細目・質問内容	答弁者
2	観光振興について	
①	コロナ禍において市の伝統的な行事などが3年ぶりに開催されたが、今後の観光事業や観光振興に関する方向性を伺う。	市長
②	湯沢市観光物産協会をはじめ、観光団体の主催による観光事業については、市が一体となって取り組むべきと考えるが市長の見解を伺う。	市長
③	「七夕絵どうろうまつり」において、絵どうろう作家として活躍している絵師や担い手の確保について、どのように考えているのか伺う。	市長



湯沢市議会議長 様

湯沢市議会議員 (1番) 兼子 正寛

項目	質問事項 / 細目・質問内容	答弁者
2	人口減少・少子化対策について	
①	本市の急激に進む人口減少や少子化についてどのように捉えているのか市長の見解を伺う。	市長
②	第2期湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、仕事の創出、若者の定住促進、子育て支援の充実の3つの戦略で若い世代への支援策に取り組むこととしているが、具体的な取組について伺う。	市長
③	全国では、物価高騰や子育て世帯の負担軽減を図るため学校給食費の無償化に取り組んでいる自治体が増加しているが、本市として学校給食費の無償化について市長の見解を伺う。	市長



湯沢市議会議長 様

湯沢市議会議員 (12番) 高橋 達

項目	質問事項 / 細目・質問内容	答弁者
1	どうなる「地熱のまち湯沢」の温泉観光地の在り方	
①	「地熱のまち湯沢」における温泉観光地はどうあるべきか、市長の基本姿勢を伺う。	市長
②	秋の宮温泉郷では、温泉水の減少傾向や低温化等の状況が表れてきていると聞かすが、他の市内温泉地域を含めて現状をどう捉えているのか。併せて、状況の変化に対する市の対応についての考えを伺う。	市長
③	地熱発電事業者等の進出について、「地熱のまち湯沢」として今後も行政が積極的なPRを推進していく考えがあるのか伺う。	市長





～自分の思いを議場で発信～
ゆざわ市民一日議会
開催報告書

〒012-8501 秋田県湯沢市佐竹町 1-1
湯沢市議会 広報広聴委員会